

ダブルホーム



地域と共に創る「新たなふるさと」

2020年度 活動報告書



新二郎 & 新二郎 Jr.



真の強さを学ぶ。

新潟大学

NIIGATA UNIVERSITY

はじめに

新潟大学では、2007年度からダブルホーム活動をスタートし、2011年度からは新潟大学独自のプログラムとして継続しています。ダブルホームは、学生たちが所属する学部・学科を「第一のホーム」とするのに対して、文系・理系・医歯系の区分を越えて「第二のホーム」を運営し、地域活動をとおして人間としての成長を目指すプログラムです。本プログラムは全学に開かれ、学部や学年を越えたチーム活動、その学生たちの主体的取り組みを支援する教職協働、学生が参加時から卒業まで活動を継続できる準正課活動であることが大きな特徴です。近年は、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むことでシチズンシップやチームワーク力を育成していくことに重点を置いています。

スタートから13年目を迎えた2020年度は、学生442人、教職員67人が参加しました。コロナ禍の影響により地域での活動全てが非対面での実施となりましたが、2学期からは、新加入生のサポートのため、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、対面ミーティングが開始されました。学生たちは地域で活動できないことを残念に思いながらも、地域で活動できていたことへの感謝の気持ちを深め、このような事態も学びと捉えて地域の思いに寄り添った非対面の活動を実施しました。12月19日には、各ホームの活動について報告し、今後の活動をさらに発展させる方向性について話し合うシンポジウムをオンラインで開催しました。学内はもとより学外の皆さまを含めて総勢236人ももの参加があり、参加者のダブルホームへの取り組み意識の高さを実感する一日となりました。

このたび、各ホームが1年間の活動の振り返りについてまとめた報告を編集し、2020年度の活動報告書として刊行いたします。ご協力くださった全ての皆さまに感謝いたします。

新潟大学 教育・学生支援機構 教育プログラム支援センター 連携教育支援オフィス
ダブルホーム部門

目次

はじめに	01	
ダブルホームとは		06 A Blange
2020 ダブルホーム活動地域マップ	02	08 B いろはの風
2020 年度ダブルホーム活動一覧	03	10 D さんせつと
2020 年度ダブルホーム活動の概要		12 E アース・アース
DISC ダブルホーム交流学生委員会		14 F Natural
ダブルホーム参加相談会	04	16 G 暖
ダブルホーム大説明会		18 H ほたる
地域プロジェクト発表会		20 I あい
第12回 ダブルホームシンポジウム	05	22 J なごみ
各ホームの報告	06	24 K かもろに
		26 L 輪～つながる～
		28 Q Sun Q
		30 R あっとほーむ
		32 S しいたけ
		34 T ほりごたつ
		36 U まほろば
		38 V かわせみ

ダブルホームとは

ダブルホームは、地域や仲間の思いを大切にしながら、正解のない地域課題に学生・教員・職員によるチームで取り組むプログラムです。地域の思いと向き合う中で「自分たちに何ができるか」をチームで考え、活動を計画・実践・省察することで、これからの社会生活に必要なシチズンシップやチームワーク力を育みます。

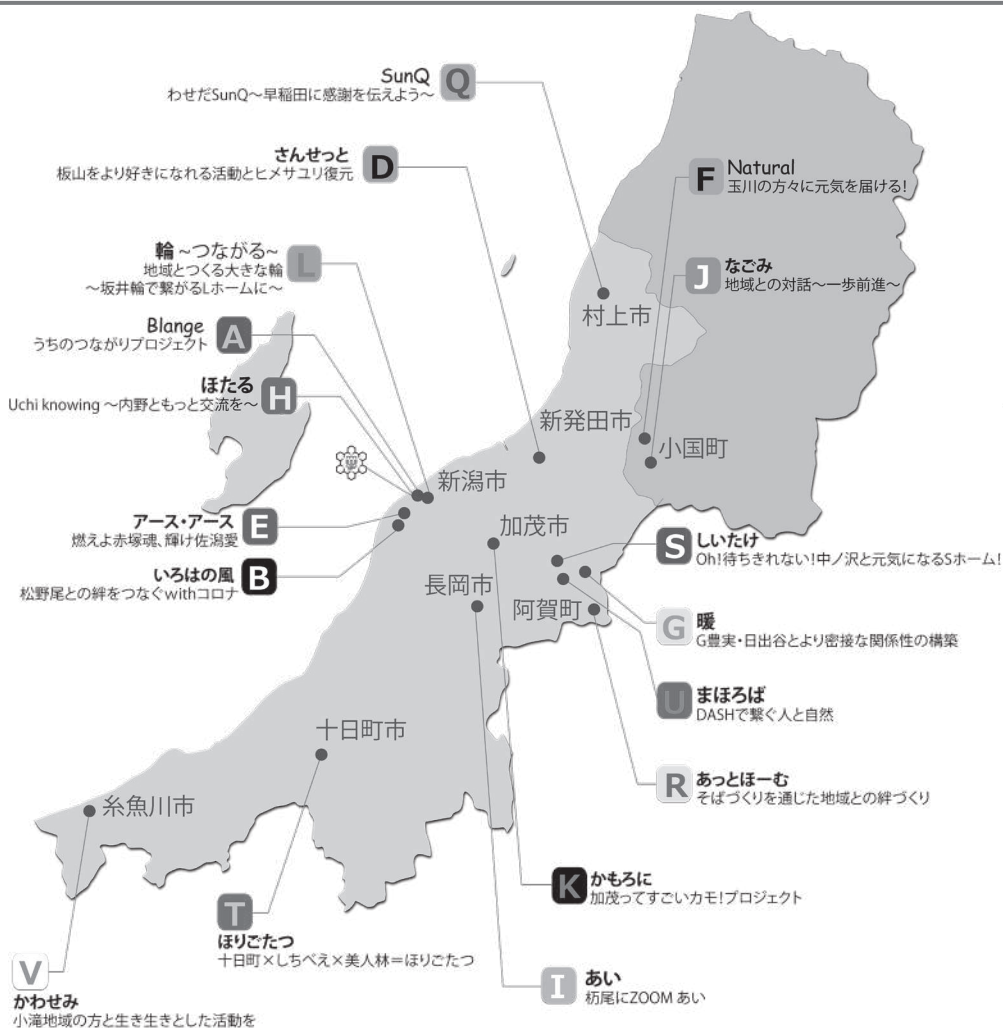


専門分野の学問を学ぶ学部・学科を「第一のホーム」とするのに対し、総合大学の特性をいかし、専門の枠を越えて学生たちが集まり、学び合う場が「第二のホーム」です。



多様な学問分野・領域の学生が教職員とともに「第二のホーム」を運営し、地域と連携しながら活動を行います。ともに地域課題に取り組む中で人間性を育みます。

2020 ダブルホーム活動地域マップ



2020年度 ダブルホーム活動一覧

ホーム	ホーム名 (プロジェクトテーマ)	活動地域	活動内容
A	Blange (うちのつながりプロジェクト)	新潟市西区 内野町 大学南	・内野紹介 (Twitter) ・Zoom親睦会 ・内野マップ作成 ・内野まちあるき ・南心会定例会参加 (オンライン)
B	いろはの風 (松野尾との絆をつなぐwithコロナ)	新潟市西蒲区 松野尾地区	・いろはの風だより発行 ・クリスマスの飾り作成
D	さんせっと (板山をより好きになれる活動とヒメサユリ復元)	新発田市 板山地区	・オンライン顔合わせ会 ・オンライン会議 ・オンライン卒業式 ・ヒメサユリ培養
E	アース・アース (燃えよ赤塚魂、輝け佐潟愛)	新潟市西区 赤塚・佐潟	・オンライン地域実習 ・潟マップすごろくの作成 ・写真や動画による白鳥観察
F	Natural (玉川の方々に元気を届ける！)	山形県小国町 玉川地区	・Zoomによる顔合わせ ・オンライン地域実習 ・ビデオレター作成 ・看板作成 ・年賀状作成
G	暖 (日出谷・豊実とのより密接な関係性の構築)	阿賀町日出谷 豊実地区	・わげしょの会とオンライン顔合わせ ・キャンドルナイト ・Instagram開始 ・マスコットキャラクター作成 ・地域の方とLINE交流 ・活動写真整理 ・年表作成
H	ほたる (Uchi knowing～内野ともっと交流を～)	新潟市西区 内野町	・オンライン地域実習 ・内野マップ作成
I	あい (栃尾にZOOM あい)	長岡市 栃尾地区	・あいホームだより発行 ・オンライン地域散策と話し合い ・マスコット作成 ・SNS開設
J	なごみ (地域との対話～一歩前進～)	山形県小国町 樽口地区	・料理コンテストとSNS投稿 ・かわら版発行
K	かもろに (加茂ってすごいカモ！プロジェクト)	加茂市	・オンラインまちあるき ・オンライン地域実習 ・「ぶらかも」についての講演会
L	輪～つながる～ (地域とつくる大きな輪～坂井輪で繋がるLホームに～)	新潟市西区 坂井輪中学校区	・坂井輪バーチャルツアー ・Instagram開設 ・郷土料理冊子作成
Q	SunQ (わせたSunQ～早稲田に感謝を伝えよう～)	村上市 早稲田地区	・Facebook開設 ・かわら版発行 ・オンライン交流会 ・地域活動・学生発表交流会
R	あっとほーむ (そばづくりを通じた地域との絆づくり)	阿賀町 七名地区	・オンライン懇談 ・地域の方とZoomミーティング ・オンライン上川ツアー ・ホームポスター制作 ・ホームボード制作 ・地域の方とLINEグループ開設
S	しいたけ (Oh！待ちきれない！中ノ沢と元気になるSホーム！)	阿賀町 中ノ沢地区	・手紙と質問 ・地域の方とZoomミーティング ・Sホーム通信作成 ・中ノ沢について輪読 ・年賀状作成
T	ほりごたつ (十日町×しちべえ×美人林＝ほりごたつ)	十日町市 松之山 下川手集落	・生き物観察フォーマット作成 ・「かわら版」の発行 ・多言語パンフレット作製 ・地域の方とオンライン交流 ・オンラインさいのかみ
U	まほろば (DASHで繋ぐ人と自然)	阿賀町 津川地区	・オンライン地域実習 ・料理リレー ・すごろく製作
V	かわせみ (地域の方と生き生きとした活動を)	糸魚川市 小滝地区	・プロフィール帳作成 ・Zoom交流会 ・ジオサイト調査 ・ジオサイトまとめ発表会

2020 年度

ダブルホーム活動の概要

4月	16~22	新入生ダブルホーム参加相談会 (動画と資料提供、SNSによる相談)
	21	「ダブルホーム活動入門Ⅰ」開始 「リーダーシップ演習ⅡⅢ-1」開始
5月	13	第1回学生懇談会
	16	ダブルホーム大説明会
	30	各ホームへ新加入生合流
6月	16	「ダブルホーム活動入門Ⅱ」開始 各ホーム内実習 & 地域の方との非対面对談
	26~	マスコットキャラクターコンテスト
7月	25	地域プロジェクト発表会 地域の方へのメッセージ CM 撮影 (NST)
8月	16・17	web オープンキャンパス 「ダブルホーム情報館」 (動画配信と資料提供)
9月	25	新加入生交流会 (DISC)
10月	7	シンポジウム実行委員会立ち上げ 「リーダーシップ演習Ⅱ-3・4」開始
11月	11	第2回学生懇談会
12月	2	地域の方へのメッセージ CM 撮影 (NST)
	19	第12回ダブルホームシンポジウム 「つなぐ~愛・EYE・I~」
1月	12~	DISC 企画オススメの○○!!
	13	「リーダーシップ演習Ⅰ」説明会
2月	9	第3回学生懇談会
	21	2020年度活動報告書原稿提出
	27	2020年次活動計画書提出



新二郎 & 新二郎 Jr.

新加入生が「ダブルホーム活動入門Ⅰ」のプロジェクトとして取り組んだマスコットキャラクターです。マスコットキャラクターコンテストで36案の中から参加者・卒業生によって選ばれました。

DISC ダブルホーム交流学生委員会

本間 麻衣 (Kホーム 工学部3年)

ダブルホーム交流学生委員会(DISC)は、ホーム間の交流を促進し、各ホームとダブルホーム全体を繋ぐ窓口となることを目的としてイベントの参加や企画・運営を行っています。今年度は非対面での活動のため、新加入生のダブルホームでの繋がりが作りづらいと考え、オンラインでの交流イベントを多く企画しました。思うように動けない状況ではありましたが、私たちにできることを考え、DISCメンバーで話し合いを重ねました。DISC 企画イベントにご参加・ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。対面の地域活動が再開したら、ダブルホームや地域の魅力を広く伝えるため、外部との連携も強化させていきたいと思っています。



ダブルホーム参加相談会

実行委員長 齋藤 大悟 (Kホーム 人文学部3年)

日時: 2020年4月16日(木)~22日(水)

資料配付・動画配信 (YouTube 限定公開)・ポスター掲示等

異例のコロナ禍という環境での初のダブルホーム参加相談会でした。ミーティングも Zoomで行っていました。そんな中で新たに出来た活動は、参加相談会の動画を YouTube にあげたことです。また、Twitter の質問箱で質問を募集して随時答えていく、という活動もしました。

成果としては、非対面を主に参加相談会を行ったとは言え、例年と大差ないほどの新加入生が入ってきてくれたことにあると思います。しかし、実行委員側としては、非対面になれていないせいもあってか、情報共有がとても円滑にできた、という印象は持てませんでした。全体で細かなことを共有すると本当に大事な情報が流れる可能性もあるので、そのさじ加減は難しいものがあったなと思いました。



参加相談会用動画



掲示ポスター

ダブルホーム大説明会

実行委員長 砂地 紗也夏 (Dホーム 経済学部3年)

日時: 2020年5月16日(土)9:00~12:30
Zoomによるオンライン開催

ダブルホーム大説明会は新加入生に各ホームについて知ってもらう会です。今年も多くの新加入生に参加いただき、嬉しく思っています。実行委員としての主な取り組みは、会の流れや内容についての決定や準備、当日の進行です。今年はオンラインという例年とは異なった形ではありますが、無事に開催をすることができました。仕事の割り振り方や話し合いの仕方について反省する点がありますが、オンライン開催への対応ができたことや非対面の中で実行委員の連携が取れていたこと等良かった点も多くあったと感じています。また、準備期間や当日に多くの方にご協力いただいたことも会の成功につながったと思います。新加入生に各ホームの魅力や様子が十分に伝わる会を作り上げられたのではないのでしょうか。



地域プロジェクト発表会

実行委員長 土田 岳志 (Eホーム 理学部3年)

日時: 2020年7月25日(土)9:00~12:30
Zoomによるオンライン開催

今年度の地域プロジェクト発表会は大説明会に続き Zoom での開催となり、前年度との開催方法の違いにより準備も初めてのことが多かったです。そんな中でも、積極的に Zoom や LINE でコミュニケーションを積極的にとることで準備も比較的順調に進められ、本番も大きなミスもなく終わることができました。しかし、準備の段階で Zoom でのミーティングということもあり全員の意見をうまく聞くことができないこともありました。特に2年生は発言しにくい環境になってしまっていたと思います。Zoom ミーティングでもホワイトボードやブレイクアウトセッションを使う、LINE で決まったことはまとめて共有などの工夫が必要だったと思います。実行委員長という立場は初めてでしたが副実行委員長をはじめ実行委員の助けもあり、至らない点も多くありましたが何とかこの役割を終えることができました。



第12回 ダブルホームシンポジウム

実行委員長 阿部 愛 (Qホーム 教育学部2年)

日時: 2020年12月19日(土)13:00~17:00
Zoomによるオンライン開催

今回はオンラインという初めての形での開催でしたが、実行委員全体で協力して作業を進めることができました。シンポジウムでは、参加者一人一人の発言の機会を増やそうと、分科会の1グループ当たりの人数をなるべく減らして、議題も話し合いやすいものを選んで工夫しました。当日は、小グループでの話し合いも活発に行われ、今後の活動への意欲も高まったのではないかと思います。シンポジウム参加者全員で新たなシンポジウムの形を作ることができたと感じています。

シンポジウムの実行委員長をして、多くのことを学びました。全体をまとめる力、先を見越して計画する力など、将来役立つスキルを得ることができました。この貴重な経験をいかして、これから生活していきたいです。





2019 年度撮影

ホームの概要

メンバー構成： 1年生9人、2年生8人、3年生2人、4年生2人、教員2人、職員2人

活動地域： 新潟市西区大学南・内野地区

関連団体： 南心会（大学南が丘）

ミーティング： 平日昼休み週1回程度（テスト期間を除く）

成果物・制作物



内野ええまちマップ

以下の URL からご覧いただけます。
<https://www5.dent.niigata-u.ac.jp/~hard-tissue/aho-me/>

活動目的と概要

A ホームの活動拠点である大学南・内野地域は五十嵐キャンパスから徒歩で行くことが可能なアクセス性の良さ、例年数多くの町内行事が行われていることなどから、地域の方との交流が盛んなホームです。コロナ禍前から2つのキャンパスを繋ぐオンラインミーティングを行っており、毎年旭町キャンパス所属の学生も参加しています。このように、様々な学部・学年の人と出会えるのがA ホームの魅力であるため、多くの人と互いに協力し合って活動を行うことを大切にしています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は、「A ホームとしてだけでなく、個人個人が達成すべき目標を明確にして各活動に参加すること」と「メンバーから出た新しい発想を積極的に取り入れ、活動をより良くするためにいかすこと」の2つでした。しかし、実際はコロナ禍に対応した非対面での活動を上手く計画・実践することは出来ず、今A ホームで出来ることは何かを模索しているうちに1年が過ぎてしまい、今年度は特に目立った活動を行うことが出来ませんでした。そのような状況下では、各人が活動のモチベーションを保つことは難しく、前向きな気持ちで積極的に活動に参加出来た人は少なかったかと思います。

年度後半では、ようやく地域の方とオンラインでの交流の機会を得たり、マップ作成といった具体的な活動を行うことが出来ました。今年度の反省としては、年度前半にもっとホームで出来ることがあったのではないかと、そうであれば上記の目標の達成度も上がったのではないかとと思います。

【ホーム運営について】

今年度の目標は「活動のベースとなる普段のミーティングをより目的あるものに変えることでメリハリのある話し合いを行い、メンバーそれぞれが主体的にミーティングに参加できる環境を整えること」と「ホームメンバー間の結束を高めることで、それぞれの活動に対する意識を高めていくこと」でしたが、非対面での活動がメインとなったことで、上手くメンバー間でコミュニケーションをとることが出来ず、目の前にある仕事を各人で淡々とこなすことが多くなってしまいました。1人に仕事が集中しないような気遣いをホーム内で行えたことは良かったですが、複数人で協力して仕事を行ったり、他のメンバーの意見やアイデアを聞くことが出来る機会は少なく、メンバー間の結束を高める機会を創出することは出来ませんでした。ミーティングに関しても、他の地域活動がなくなったことで、他の活動のベースとなるものから唯一の活動という位置づけのものに代わり、週1ペースでの参加が負担となり、各人のA ホームに対する所属意識や関心が段々と薄れていってしまうのを感じました。今年度は、ホーム運営に関して、メンバー間で顔を突き合わせて話すことの大切さや意義を感じるとともに、ホーム内の一体感アップに向けて昨年度からの刷新がかなわなかったという非常に不甲斐ない結果となりました。

活動を通して学んだこと

私は、ダブルホーム活動を通じてコミュニケーションの大切さを学ぶことができました。同じホームの同級生や先輩方、そして地域の方とのコミュニケーションの中で、新たな知識や自分とは異なった意見、発想を知ることができてよかったです。

小川 桃香（医学部1年）

今年度は zoom を活用した非対面の活動がメインとなりました。直接会えなくても画面越しで活動することは十分可能で、誰でもどこからでも手軽に活動に参加できるという利点を感じました。非対面だからこそできることに目を向け活動の幅を広げていきたいと思いました。

荒巻 佳穂（農学部2年）

私が活動を通して学んだことは、臨機応変に対応することの大切さです。今年は、直接地域に行って活動することが出来ず、今の状況で出来る活動を考えて行う必要がありました。想定外のことが起きる地域活動の難しさを感じた中で、改めて臨機応変な対応の大切さを学びました。

小林 鈴果（経済科学部1年）

今年度の活動は、これまでのような地域に赴き、活動を行うということができず、画面を通した活動が増えました。そのような中でやはり顔を合わせて話せる機会があるというのは活動していく上で重要なことであると改めて認識することができました。

鈴木 涼（法学部3年）

今後に向けて

今後に向けては、引き続きコロナ禍での活動となることを見据え、非対面での活動を軸に、まずは来年度の計画をしっかりと練る必要があると感じています。どのような活動をするべきか分からなかった今年度とは違い、来年度は今年度の反省を踏まえてより活発に活動を行えるはずです。コロナ禍で活動が制限されていることを言い訳にせず、今できる最大限のことに取り組んでいきたいです。そして、ホームメンバー全員の力でこの苦しい状況を打開し、年度末にはみんなで達成度を感じることが出来るような充実した1年間となるようにしたいです。最近では、地域の方との交流も再会し、地域の方からもアドバイスやアイデアを頂く中で、私たちもダブルホーム活動の意義やコロナ禍での活動に希望を見出せるようになり、ホームの機運も高まっているように感じます。地域の方との交流やメンバー間の関係づくりの機会を引き続き大切にして、ミーティングの雰囲気改善や新入生を迎える準備を着実に進めていきます。

活動地域より

2月南心会を初リモートで開催、やっぱりみんなの顔を拝見し嬉しくなった。皆の関心が『梅プロジェクト』に多く、Hさんのどや顔が印象に残った。町内行事再開時には『やらされる』ではなく『楽しむ』『楽しませたい』の行動で仲間作りをして欲しい。町内には『楽しむ』上手が大勢います。

大学南が丘 南心会会長 遠藤 弘技 様

担当教職員より

今年度から新たに A ホームの担当となりました。非常にまとまりの良い活発なホームというのが最初の印象です。しかし如何せんコロナの影響で例年通りの活動ができず苦勞した1年だったかと思います。どうアイデアを出して状況を打開するか、知恵を出し合いたいところです。

経済科学部 溝口 由己

活動記録（2020年4月～2021年3月）

- 4月 内野紹介 (twitter)
- 5月
- 6月
- 7月 ZOOM 親睦会
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月
- 12月 内野町歩き (~2月)
- 1月
- 2月 南心会の定例会に参加 (オンライン)
- 3月 南心会の定例会に参加 (オンライン)・内野マップ作成



2019年度の梅プロジェクトの様子



2019 年度撮影

ホームの概要

メンバー構成：1年生9人、2年生9人、3年生7人、4年生5人、教員1人、職員3人

活動地域：新潟市西蒲区松野尾地区

関連団体：松野尾地域コミュニティ協議会

ミーティング：平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



いろはの風だより 10月号



いろはの風だより 11月号

活動目的と概要

私たちは新潟市西蒲区松野尾で、子どもたち向けの行事の一部分を預けていただき、企画運営をさせてもらっています。ホームミーティングを通して、どのようにしたら子どもたちに楽しんでもらえるのか、地域の方の助けになるのかを試行錯誤を重ねてきました。これまでの活動を基盤として、来年度は、コミュニティ協議会だけではなく、松野尾小学校での活動にも参加させていただきます。地域の方々との連携を大切に、Bホームとして何が出来るかを学生でよく考え、新しい活動にも進んで取り組んでいくことを目指しています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

Bホームの活動は松野尾コミュニティ協議会の方々との連携をとりながら、松野尾コミュニティセンターを中心に展開しています。そこで行われる子ども向けの行事の一部分をBホームの学生が担当し、行事の企画運営を行っています。

今年度はこれまでの活動を基盤として幅広い世代の方が関わるきっかけを作るという目標を掲げ活動をしてきました。

コロナ禍の中で全く地域に行くことができず、活動を行うことができませんでした。しかし、その中でも新しく「いろはの風だより」の発行を行い、地域とのつながりは継続することができました。

来年度は感染予防を行い、松野尾コミュニティ協議会の方たちと相談し、活動の再開、コロナのなかでの新しい企画づくりをしていくかが課題です。

【ホーム運営について】

2020年度は1年生9名、2年生9名、3年生7名、4年生5名の計30名で活動してきました。今年度は活動目標として

- ①多くの学生に役割を与え、ダブルホームに対するやる気向上を図る。
- ②活動別CEO制度の導入（活動ごとにその代表学生を2・3名決め、その学生中心に活動の準備を進める。代表学生が全体に指示を出し、Bホーム全体で協力する体制とする。）を掲げ活動してきました。

新しく始めた「いろはの風だより」では各学年でグループ分けし、分担して作成することができました。

活動ができない中でもオンラインミーティングでは簡単なレクリエーションをおこない学生間の仲を深めることができました。

活動を通して学んだこと

今年度は、コロナ禍ということもあり十分な活動ができたといえませんでした。この状況だからこそできる活動を考える良い機会ではないかと感じました。来年度に活動が再開できれば、地域の方々やホームメンバーと活動を通して積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思います。

有路 竜雅（工学部1年）

2020年度は地域に足を運ぶことはできない状況でしたが、そのような状況下でも自分たちができること、地域とつながれることを考え、主体的に取り組む姿勢を学びました。次年度も従来と変わることが多くなると思うので、今年度学んだことを活かしたいです。

原田 笑実（経済学部2年）

前例にないことを考え続ける1年でしたが、ホームメンバーや地域の方と話し合うことが最重要だと学びました。新しく始めた活動も目的や対象を明確にし、意志を強く持って企画できたと思っています。なかなか会えなかったからこそ人のあたたかさを強く感じることができました。

柴山 晴香（教育学部3年）

ダブルホームの4年間で多くの出会いに恵まれました。同じホームの学生や地域の方、教職員の方、実行委員の仲間など、たくさんの人との関わりを通して充実した活動にすることができたと思います。人との出会い、つながりの大切さをかみしめ、今後も歩んでいきたいと思っています。

高林 瑞樹（教育学部4年）

今後に向けて

今後 B ホームでは、松野尾地域の抱える課題と私たち学生の意見を共有し幅広い世代とかわりを持てるような活動をしていきたいと考えています。改めて松野尾地域の課題を再確認し、Bホームとして活動する意義を一人一人認識する必要があると感じました。

そのためにまずは今年度行うことができなかった、まちあるきなどの密を避けられる活動を地域の方と協力しながら感染予防を行って徐々に再開していき、松野尾地域と直接ふれあえる機会を増やしていきたいと考えています。

また実際に地域を訪れることができないときの活動もダブルホームでどんなことができるかホーム内で積極的な意見交換を行い、昨年とは違った形で働きかけ、松野尾地域を盛り上げていきたいと思っています。

活動地域より

令和二年度は新型コロナ禍で主要な事業が殆んど実施不可となってしまった。Bホームともリモート会議のみで、地域の良さも伝わらなかった。早く終息し自由に活動出来るようになる事を願うばかりです。三密に気を付けてまちあるき勉強会位は可能なのか、検討してみる必要もあると思います。

松野尾地域コミュニティ協議会 渡邊 泰雄 様

担当教職員より

今年度は新型コロナウイルスの影響により、活動が制限された1年でした。対面によるミーティングが再会された時に皆さんが嬉しそうに会話していたのが印象に残っています。

地域活動が再開された際は、みんなで松野尾を盛り上げましょう。

施設管理部施設整備課 石塚 寿志

活動記録（2020年4月～2021年3月）

- 4月
- 5月
- 6月
- 7月 オンライン地域実習
- 8月
- 9月
- 10月 いろはの風だより
- 11月 いろはの風だより
- 12月 クリスマス会の飾りづくり（郵送）
- 1月
- 2月 卒業を祝う会（オンライン）
- 3月 いろはの風だより



12月 松野尾コミュニティセンターに飾っていただいたクリスマス飾り（「いろはの里会報」第37号より）



2月 卒業を祝う会（オンライン）（「いろはの里会報」第38号より）

D ホームさんせつと 板山をより好きになれる活動とヒメサユリ復元



ホームの概要

メンバー構成：1年生6人、2年生6人、3年生4人、4年生5人、修士以上2人、教員3人、職員2人

活動地域：新発田市板山地区

関連団体：夢づくりいたやま

ミーティング：平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



新入生紹介瓦版



卒業生紹介瓦版

活動目的と概要

Dホームは新潟県新発田市の板山地区で活動をしています。地域の一員のように板山地区の方々の中へ溶け込み、共に活動していくことを活動目的としています。

主な例年の活動は、新入生が最初に参加するイベントである顔合わせ会、5月にある田植えと夢まつり、8月にあるキッズサマースクール、10月にある稲刈り、11月にある収穫祭、1月にあるほやほやです。それに加えて、ヒメサユリの復元活動を毎年行っており、農学部生が中心となって培養や定植をしています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は「ヒメサユリを培養し自生を促すことと、板山のあらゆる年代の方々に、板山のさらなる良さに気づいてもらえるような活動・関わり方を考え、それらを通して私たちも板山を好きになっていくというサイクルを形成していくこと」でした。ヒメサユリの培養については、板山地域で元々多く生息していた準絶滅危惧種であるヒメサユリの自生を促すための培養及び板山への定植活動などを行っています。しかし、コロナ禍で制限があったため、現時点では1部のメンバーを中心に、活動を行っている状態です。来年度はオンラインでのヒメサユリ説明会などを行って、メンバー全員がヒメサユリ培養の活動に関わることができればと考えています。

板山の方との交流では、今年度は地域の行事に参加することこそできなかったものの、新たに Instagram の開設と地域の方との LINE グループの作成を行いました。Instagram では地域の魅力や昨年度の活動の振り返りの発信を行い、LINE では地域の方とのたわいない会話を通して、昨年度よりも頻繁にコミュニケーションをとることが出来たと感じています。これらの活動は来年度も継続して行っていきたいです。

【ホーム運営について】

ホームの運営については、非対面でできる地域の方との交流、ヒメサユリの活動の見直し、来年度に向けた準備を進めていこうと目標を立てていました。成果としては、地域の人とのオンラインでの交流が、シンポジウムを含めて4回実施することが出来ました。しかしその反面、瓦版の作成が年に2回しか行えなかったことや、新しい取り組みの計画から実行までが遅くなったことで、1年生のやりたいことをほとんど出来なかったことが反省点です。来年度はプロジェクトチームの編成をしっかりと行い、計画的にプロジェクトを実行できるようにしていきたいです。

活動を通して学んだこと

板山の方とお話して、「今何が出来るか」は地域の方の声あってこそ考えられると実感しました。また画面越しでも、板山の方の温かさを感じました。今年度は「何かしなくては」と考えが先走り、地域の方の声への傾聴が不十分だったように感じます。来年度はそのような機会を増やしたいと思います。
清野 すみれ（農学部1年）

地域での活動ができなかったことで、地域の方と直接交流ができることの有難さを改めて感じました。活動に制限があったことは残念でしたが、2年生を主体として、限られた中で自分たちにできることをホーム内で考えられたと思います。

砂地 紗也夏(経済学部3年)

今年度は「人と関わることの大切さ」を強く感じました。また、今まで当たり前のように過ごしていた日々が恵まれていたことを感じさせる良い機会にもなりました。来年度では、学んだ事について地域の方等を含む「多くの人」という言葉が「今年度学んだこと」に含まれる状態になることを望んでいます。
谷 友誠（工学部2年）

板山という場所そしてコミュニティを知ることが出来たことに感謝しています。活動で多くの魅力を知りました。ふとした時にそのことを思い出せること、繋がりを感じられることそのことが素敵だなと思います。今後も様々なことに関心を持ち、自分の幅を深く広くしていきたいです。

釣崎 恵里子（農学部4年）

今後に向けて

今後の目標としては、地域の方との交流では、板山内でZoom を使える人を増やすために協力すること、板山とDホームのLINE グループで今後、地域との情報共有を今以上に密にすること、地域や行事についての勉強会を、板山の方々と交える形で行うこと等を、今後実施していきます。またホームでの活動では、新入生に対して地域行事の様子を紹介できるよう、アルバムやスライドショーを作成すること、活動方針や活動のアイデアなどをまとめ次世代以降に引き継げる体制を整えること、子供たちとの交流のために、板山すぐろくや板山かるたなどの作成を行うこと等を実施していきたいです。

ヒメサユリについては、「地元産のもので自生地を広げたい」という、地域とDホームの共通目標のために、ヒメサユリ培養班を中心にホームメンバー全員で復元活動を継続していきたいと考えています。そのためにも、ホームメンバーがヒメサユリに関わる機会を少しでも増やしていくことを最優先に考えたいと思います。

活動地域より

新潟大学 D ホームサンセット6名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。D ホームの皆様には夢づくりいたやまの活動の一翼を担って頂きありがとうございます。皆様の参加により、いたやまの活動はとても活性化しています。これからも様々な人との交流を大切に、いろいろな事に挑戦してください。

夢づくりいたやま 井伊 博人 様

担当教職員より

令和2年度のダブルホーム活動において、これまでと何がどう変わったのか、どのように活動したのか等の記録は、やがて歴史の一つに残る貴重な報告書になると思います。いま直面する困難をホーム員同士の協力で難路を突破し、板山の皆様と新しい取り組みを進め、新しいDホームの歴史を創造してもらいたいと願うばかりです。

農学部 山城 秀昭

活動記録（2020年4月～2021年3月）

- 4月
- 5月
- 6月
- 7月 顔合わせ会（Zoom）
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月 オンライン会議
- 12月
- 1月
- 2月 卒業式（Zoom）
- 3月



2月19日 卒業式(オンライン)

* 写真撮影時のみマスクを外しました。



2月12日 ヒメサユリ培養



2019 年度撮影

ホームの概要

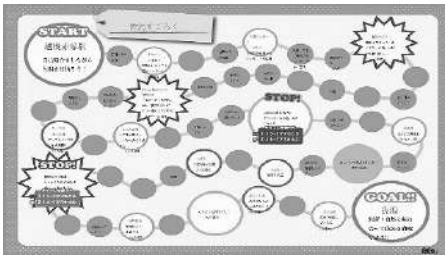
メンバー構成：1年生10人、2年生8人、
3年生9人、4年生4人、教
員2人、職員2人

活動地域：新潟市赤塚地区

関連団体：佐潟と歩む赤塚の会

ミーティング：平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



潟マップを基にしたすごろくです。
対面ミーティングの際に使用しました。

活動目的と概要

E ホームはラムサール条約登録湿地である佐潟で活動をしています。私たちは、「佐潟と歩む赤塚の会」の皆さんと連携し、佐潟の豊かな自然を保護するとともに、佐潟をより多くの人に知ってもらうことを目的として活動を行っています。地域の諸活動に参加して地域を盛り上げることに加え、新大祭での出店なども行っています。また、今年度からは SNS での情報発信に取り組み始めました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の活動目標は①「佐潟の水質改善、農家の方との連携にいて、貢献できる活動を考える」②「様々な人との交流を行い、新しい知識や活動地域の魅力を発見していきたい」③「マップの活用方法を考える」の3点でした。

①については、地域の方の求めていることと自分たちが考えていることとのギャップもあり、特に農家の方との連携に関しては今年度から話し合うようになった議題なので、なかなか地域の方と直接お話する機会がない中で進めることは難しいと判断し、来年度以降の目標として引き継ぐこととしました。

②については、例年のように地域活動に参加することはできなかったため地域の方との交流はパソコン越しに1度行われたただけだったため、十分なコミュニケーションが取れたとは言えないと思います。週1回のミーティングを通じて活動について話し合う中で地域の魅力を知っていったと感じています。

③については、多言語化や潟マップにそった赤塚地域の散歩動画作成等の案が出され、地域に行けるようになったときスムーズに動画作成に着手できるよう、動画の構成や発信媒体について話し合いを行いました。また、潟マップを基にしたすごろくを作成し、新加入生と一緒にやることで、地域に行ったことのない新加入生に佐潟を知ってもらうきっかけとしました。

【ホーム運営について】

まず、ミーティングの参加人数を増やすことに関してはほとんど達成できませんでした。地域に行くことができないということで、ミーティングの議題をうまく決めることができなかったことや、非対面でのミーティングになれておらず、進行を上手くすることができなかったことが人数減少につながってしまったと思います。

次に、仕事の役割分担については、ミーティングに参加する学生が少なかったため、参加する学生に負担が偏ってしまいました。また、ほとんどの仕事を2年生が行ってしまったため、1年生に仕事を割り振りすることができませんでした。情報共有については、ミーティング後のメールだけではミーティングに参加しなかった人が内容を理解しにくく、話し合いの内容についていけなくなってしまうということで、ミーティングの際、書記担当を作り、LINEのグループチャットでも共有を行うようにしました。

活動を通して学んだこと

自分がダブルホームで学んだこととは、人とのつながりの大切さです。なぜなら、今年度のダブルホームではメンバーと話することもなかったため、会議や意思疎通のし難さを身に染みて感じたからです。人とのつながりは、全ての基礎になっていることが改めて分かりました。

依田 陽太郎（経済科学部1年）

ダブルホームでは学生の主体性と積極性が大切だと学びました。今年度は活動が大きく制限されたため、非対面でもできる新しい活動を考えました。学年は関係なく、自分たちと地域のために何ができるかを考え、ホームで意見を共有することが重要だと感じました。

奥村 真唯（医学部1年）

今年度は自ら発案・実行する難しさを目の当たりにした年でした。昨年度とは大きく異なる状況下での活動は手探りで進めなければならず、行動を起こすことの重要性を深く学びました。また、地域の方より頂いたメールから、手段に寄らない人の温かさを感じた1年でもありました。

阿部 春乃（農学部2年）

今年度は昨年度までの活動ができず、自分たちで行動を起こさないと何も進まない状況だったので、今までどれほど地域の方や先輩に任せきりになっていたかを痛感しました。また、初対面の人とオンラインで交流し、議論を行うことの難しさを感じました。

岩野 ひかり（経済学部2年）

今後に向けて

今年度は地域の方と関わる機会をほとんど作ることができず、非常に残念でしたが、そんな中でも地域の方が連絡系の学生を通して温かいメッセージをくださり、とても励まされました。今後はシンポジウムで知った他ホームの取り組みも参考にしつつ、非対面での地域の方との交流の場も増やしたいと思っています。

また、シンポジウムでは他ホームや地域の方と話し合う中で、地域の歴史を学ぶ、パンフレットを多言語化する、など、オンラインでも可能な取り組みが多数見つかりました。実際に計画し、行動に移せた企画もありますが、今年度は一部分しか実行することができていないので、せっかく出たアイデアを無駄にせず、少しずつ実行に移していきたいと思います。

初めてのことばかりでなかなか思い通りにはいかず、課題の多い年ではありましたが、自分たちで考えて行動することが多かったため、それぞれが確実に成長出来た年でもありました。今年度感じた課題を今後の活動に十分活かしていきたいと思っています。

活動地域より

卒業を控えたEホーム4年生からメールが届いた。「入学当初は激しい人見知りをしていました私ですが、（活動で得た）コミュニケーション力を武器に就職することができた」との内容だった。非常にうれしかった。今年度は新型コロナウイルスの影響で活動に大きな制約が生じた。新年度は何らかの交流を図りたい。

佐潟と歩む赤塚の会 涌井 晴之 様

担当教職員より

ラムサール条約登録の地「佐潟」はマガモ、オオヨシキリ、ミコアイサ等をはじめとする、いのち豊かな場所です。市民の愛する角田山が紅葉する時期から、山茶花が咲く中、シベリアからのハクチョウたちは、私たちに国境なき勇気を見せてくれます。みんなで、ドンドン出かけましょう！

教育学部 小林 日出至郎

活動記録（2020年4月～2021年3月）

- 4月
- 5月
- 6月
- 7月 オンライン地域実習
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月
- 12月
- 1月
- 2月 写真、動画による白鳥観察
- 3月



2月22日 白鳥観察



ホームの概要

メンバー構成：1年生9人、2年生8人、3年生5人、4年生2人、教員1人、職員3人

活動地域：山形市西置賜郡小国町玉川地区

関連団体：小国町振興会

ミーティング：平日昼休み週1回程度、試験期間中は休み

成果物・制作物



地域の方に送った年賀状の一例



試作した魅力マップ

活動目的と概要

私たち F ホームは山形県小国町玉川地区で活動を行っています。玉川地区では、田植えや雪掘りのお手伝い、グラウンドゴルフなどの活動を通して地域の方々との交流を深めています。しかし、現在新型コロナウイルス感染症の影響で地域の方々と交流する機会を作ることが難しくなっています。その状況下で F ホームでは、オンラインで地域の方々とお話しする機会を設けたり、ビデオレターや年賀状、瓦版の作成などを行い、地域の方々と交流を深めています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の F ホームは「玉川の方々に元気を届ける！」という目標のもと、活動を行ってきました。

はじめに、看板作り・年賀状作り・ビデオメッセージ作り・瓦版作り・魅力マップ作り・ホームページ作り・玉川ツアーの内容作り・地域の方との Zoom ミーティング・地域の方への LINE でのミーティング報告という 9 つの活動が発案されました。私たちはひとまず、看板・年賀状・ビデオメッセージの 3 つのチームに分かれて活動を進めました。年賀状とビデオメッセージについては、12 月までに活動が終了し、どちらも地域の方に喜んでいただくことができました。3 つの活動終了後、魅力マップ作りに取り掛かりましたが、自分たちのこれからの方向性をもう一度見つめ直したいという考えに至ったことから、今年度の終わりはメンバー同士の交流を深める時間に当てました。これらの活動と同時進行で行っていたものとして、瓦版作り・地域の方との Zoom ミーティング・地域の方への LINE でのミーティング報告の 3 つがあります。瓦版作りについては、1 月に地域の方へ送ることができました。地域の方との Zoom ミーティングについては、地域の方お一人とではありますが、毎月 30 分程度行うことで、交流を深めることができました。LINE でのミーティング報告については、お互いを思いやる気持ちを伝えたり、現状報告をしたりと 1 つの交流の場を新たに作る事ができたと感じています。

以上のように地域に直接行くことはかなわずとも、村役場の方などを通し地域の様子をうかがうなど従来とベクトルの違う活動に取り組めたことは、今後の活動の糧になっていくと感じました。

【ホーム運営について】

今年度はオンラインということもあり、ホームメンバー同士の交流が難しい状況ではありましたが、前期は Zoom で後期は月に二回の対面ミーティングを最大限活かして、メンバー同士の交流を深めていきました。ホーム長などを中心に、手探りながらもスムーズにホームの運営が為されていたと思います。来年以降はメンバー全員が更に積極的に活動に参加できるような運営をしていきたいと思っています。

活動を通して学んだこと

今年度は普段とは全く違う一年でしたが、モヤモヤしたり停滞したりする中でそもそもダブルホーム活動とは何だったのか、自分はなぜ参加したのかを考え直すことができました。来年度もどうなるかわかりませんが、ホームも地域の方も楽しめる有意義な活動ができるようにしたいです。

富永 さやか (人文学部2年)

今年度は実際に玉川地域に行くことはできませんでしたが、どうしたら山間地域を盛り上げることが出来るかを考えることから始まり、企画を計画して実行できた点では自分自身にもFホームにもプラスでした。いち早く玉川に行って様々な企画を実践し、玉川の皆さんと交流したいです。

神谷 篤大 (農学部1年)

今年度は、例年の活動がほとんど行えなくなったからこそ、Fホームの活動の意義や地域との向き合い方を見直すことができたと感じています。義務的ではなく、地域の方の思いを考えて活動に取り組むこと、加えてホーム内の交流も大事にすることを意識し、来年度に臨みたいです。

古田 彩乃 (創生学部2年)

今年度は新型コロナウイルスの影響により、リモートのみでの活動となってしまいましたが、ホーム全体で様々な活動に取り組むことが出来ました。また、地域の方々と直接会ってともに活動することの大切さを実感しました。

川口 大輔 (工学部2年)

今後に向けて

今後は、以前から取り組んでいた萱野峠の看板制作を完了させることを念頭に活動していきたいと考えています。今年度は制作を進めることが難しい状況だったため、来年度も引き続き制作していきます。また、今までは地域で行われている活動への参加を主体にしていましたが、高齢化が進み地域住民だけで新たな活動を始めることは少々難しいとのことで、学生主体の活動を増やすことも視野に入れていきます。ホームメンバーからのアイデアを基に、学生主体で何が出来るかについての構想を深めていきたいです。さらに、今年度からは小国町役場の職員の方とも交流を始めたため、来年度からはより多くの方々の協力が得られると予想しています。

コロナ禍で地域に訪問が出来なかった分、今までの活動の振り返りや反省に重点を置いた結果、形式化しつつある活動の見直しなどをすることができました。来年度は「Fホームの原点に立ち返って活動する」という方針の下で、ダブルホーム活動を継続していく予定です。

活動地域より

今年のような大雪だと本来でしたら雪掘を皆さんにも手伝っていただけなのですが、残念ながら今年は皆さんを迎え入れることが出来ませんでした。来年度こそは皆さんと一緒に活動したいと考えています。皆さんもコロナや風邪に負けないように頑張ってください。

小国町玉川地区 伊藤 忠吾 様

担当教職員より

直接地域に出向くことができない1年でしたが、オンラインを活用した普段のミーティングや地域の方との話し合い、ビデオレター作成など、制限された中でも工夫して活動ができました。来年度も、地域・ホーム・自分自身のために何が出来るか考えながら、精力的に活動に取り組みましょう。

人文社会科学系学務課創生学部学務係 高木 美桜

活動記録 (2020年4月~2021年3月)

- 4月
- 5月
- 6月 Zoomによる顔合わせ
- 7月 オンライン地域実習
- 8月
- 9月
- 10月 対面ミーティングの再開
- 11月 ビデオレター作成
- 12月 看板作成、年賀状作成
- 1月
- 2月
- 3月



11月20日 ビデオレター作成の様子



10月23日 対面と非対面の融合型ミーティングの一幕



ホームの概要

メンバー構成： 1年生8人、2年生8人、
3年生7人、4年生4人、
教員3人

活動地域： 阿賀町豊実・日出谷地区

関連団体： わげしょの会

ミーティング： 週1回オンラインミーティング

月1、2回程度の対面ミーティング

成果物・制作物



マスコットキャラクター作成で生み出されたエゴマジェンヌちゃん



LINEでオススメスポット紹介

活動目的と概要

私たちが活動する阿賀町日出谷・豊実地区は自然豊かな地域です。近年、少子高齢化が進み、若者の地域離れがみられることから地域の方々と交流し、より愛着を持ってもらうことを目的として活動します。これまでGホームは豊実で行われている様々な活動に参加し、地域との交流を深めてきました。今年度は、オンラインミーティングを積極的に行ったり、新たな交流方法を模索したりしながら、これまで築いてきた地域との絆を深めます。またこの機会に新たな活動にも挑戦し、Gホームの成長に繋がる充実した1年間にしたいと考えます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

①オンラインだからできるわけしょの会とのより密接な関係性を構築する。(ZoomやLINEなどを用いた交流)

②LINEを通じて、双方の地域の魅力を発見し発信する。

①に関しては、わけしょの会とGホームとの顔合わせをZoomで一度行いました。他にも、Gホームとわけしょの会が入ったLINEグループを作成しました。そのLINEグループで情報共有や定期的な交流を行えました。また、新加入生が自己紹介を行い、わけしょの会の方が質問する「メッセージ強化週間」を行ったことで、新加入生もわけしょの会と交流できました。全体としてわけしょの会との継続的な交流ができました。

②に関しては、GホームのInstagramのアカウントを作成し、活動の発信を行いました。また、わけしょの会の皆さんも、地域に行けない私たちのために、キャンドルナイトの様子をInstagramのライブ配信を行ってくださりました。対面で活動することは出来ませんでしたが、SNSを活用してお互いに発信することができました。

【ホーム運営について】

①ホームの雰囲気づくり：今後のホームの方針を話すきっかけもかねて、親睦会などを開催してメンバー間の親睦を深める。

②ミーティングの内容の充実：毎回のミーティング内容を明確にし、意味のあるミーティングにする。

③地域活動の参加率の上昇：事前に日程の情報を伝え、予定を組みやすくする。また、それぞれが一つ一つの活動に仕事に分担を持つようにし、責任感を持つ。

①に関しては、Zoomを利用して絵しりとりなどを行ったことで、対面活動が限られている中でも親睦が深められたと考えられます。

②に関しては、毎回のミーティング連絡で、内容を明確にしていたため、充実した活動が行えていました。

③に関しては、ミーティングの内容・日程を事前に伝えていたため、参加率は昨年度よりも上昇しました。ホームでの活動では、役割分担を行えたため、一人一人が責任をもって行いました。

活動を通して学んだこと

G ホームでの活動を通して私が学んだことは、困難な状況でも前向きに取り組むという姿勢です。例年通りの活動ができないという特殊な状況でも自分たちにできることを積極的に探して行動するという経験は、非常に貴重なものになりました。

杉本 稜一郎 (創生学部1年)

全てを悲観的にとらえるのではなく、今だからできることがある！と思えば活動できたのはG ホームの強みになったと感じます。協力的な仲間と、親身にサポートして下さる教職員の皆様の存在のありがたさを実感し、この一年間で大きな学びと成長につなげることができました。

平松 紗也加 (経済学部2年)

今年はG ホームにとって挑戦の1年でした。地域での活動が全く出来なかった中で、自分たちにできることを考え、地域の方とオンライン交流を行ったりマスコットキャラクターを考えたり新しいことに挑戦しました。2年生中心に前例のない1年間を乗り越えたことは一人一人の自信にも繋がったと思います。 若林 彩美 (人文学部3年)

以前のように行き来が出来なくなってしまった状況の中、わけしょの会の皆様とどのように交流するか、また生徒同士も集まらない中どのように活動をしていくかということの後輩達を中心となり考えてくれました。オンラインを使ったミーティングなど新しい様式を取り入れる難しさをホーム全体で学べたと思います。木下美南 (農学部4年)

今後に向けて

1つ目は、来年度からは、ホーム内でメンバーを絞るなどして少数で地域での活動に参加していきたいです。しかし、学校の方針や、コロナ禍での活動ということもあるので、地域訪問の活動に関しては工夫して行っていきたいです。

2つ目は、オンラインでも深い関係づくりのできる活動をしていくことです。オンラインのみの活動が多かったため、わけしょの会との交流の意味が薄れてしまいました。会の方からも活動意義が希薄化しているという意見が得られました。G ホームとしては、今後もわけしょの会との交流を続けていきたいと考えています。そのために、オンラインでも意味ある交流をできるような活動を考えていきたいです。

3つ目は、対面での活動で制作物を作成することです。前期は、オンラインでの活動のみに制限されていましたが、後期からは対面での活動が可能になりました。そのため対面での活動では、制作物などの作成を通して、あたたかみのある関係づくりをしていきたいです。

活動地域より

G ホームの皆さん、お元気ですか？豊実はゆっくりと時間が流れ、こちらは変わりません。今は訪問できるまでの準備期間だと思って、基礎を固めていきましょう！！それではお会いできる日を楽しみにしています。

阿賀町豊実地区 佐藤 高博 様

担当教職員より

制限された環境の中で、「できることは何か」「楽しむ方法はないか」、アイデアを出しながら模索した一年でした。苦しい時こそ笑顔を忘れず、オンラインミーティングもいつも和やかな雰囲気です。身体的距離は保ちつつ、心の距離はグッと近く、「暖」かなホームであり続けたいですね。来年も楽しみましょう！

工学部 飯島 淳彦

活動記録 (2020年4月~2021年3月)

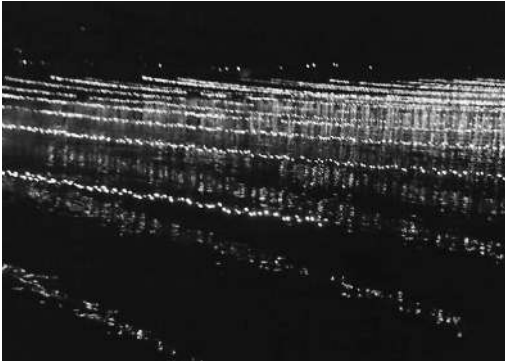
- 4月
- 5月 2019年度活動報告資料作成・配布
- 6月 わげしょの会との
オンライン顔合わせ
- 7月 キャンドルナイト
- 8月 Instagram 開始
- 9月 マスコットキャラクター作成
- 10月 LINEで自己紹介
- 11月
- 12月 LINEメッセージ強化週間
- 1月 活動写真整理作業
- 2月 G ホーム年表作成
- 3月



6月28日 わげしょの会とのオンライン顔合わせ



1月20日 対面ミーティング



2019 年度撮影

ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 9 人、2 年生 8 人、3 年生 9 人、4 年生 3 人、教員 2 人、職員 1 人

活動地域： 新潟市内野地区

関連団体： 夢アートうちの

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物

2019 年 7 月 内野小ワークショップにて作成した牛乳パック灯籠



2019 年 7 月 内野小ワークショップにて作成したペットボトル灯籠

活動目的と概要

H ホームは新潟市西区内野町を活動の拠点として、「H ホームのことを知ってもらう」ことを長期の目標、「地域の方との交流を深める」ことを今年度の目標として活動を行いました。例年であれば、内野の一大イベントである「新川ほたる」のお手伝いや、学生主体の「新大ランド」を通して地域の方々との交流を行っていました。今年度は、内野のまだ見つかっていない魅力を発見し、学内に限らず、多くの方に発信するために地域の特産物やイベントを紹介する「内野マップ」の作成を試みました。

活動目標の達成状況**【地域活動について】**

今年度の地域活動の目標は「地域の方との交流を深める」ことと、「H ホームを知ってもらう」ことでした。昨年度は地域活動の数を増やし、交流の機会を増やすことができましたが、今年度は残念ながら、懇親会の開催も難しく、例年よりも少なくなっていました。来年度は交流ができるように、感染症対策の点を考慮したうえで、以前まで開催していた行事の形態を変えて行えるように考える必要があると感じました。後者においては、H ホームの活動を PR するために NST の CM に参加し、普段どんな活動をしているのかを知ってもらう良い機会となりました。内野探索が実施できなかった新入生をはじめ、より多くの方に内野を知ってほしいという考えから、内野の特産物やそれを使った料理、お祭りや行事、内野の名所を巡るルートなどをまとめた「内野マップ」の作成に取り組み始めました。初めての取り組みとなり、途中段階ではありますが、新潟大学からも歩いて行ける内野地域の魅力を形に残せるように、来年度も継続して行っていこうと思います。

【ホーム運営について】

ホームの組織運営において「事前の連絡を行い、ミーティングで時間を有効に使うことができるようにする」「担当者だけでなく、ホーム全体として活動までの流れを把握することができるようにし、引き継ぎをスムーズに行えるようにする」の 2 点を今年度の目標として立てました。週に 1 回程度の Zoom での非対面ミーティングを主とし、対面ミーティングが行えるようになったときには、対面ミーティングを月に 1 回実施しました。対面ミーティングでは、お互いの顔を合わせられ、非対面よりも積極的な話し合いを行うことができました。今年度から始まった Zoom を用いた会議の大きな利点は、同じ空間にいない人が参加できることでした。上手く活用できれば、地域の人々がミーティングに気軽に参加できるようになると感じました。しかし、非対面で行うミーティングでは、ホームの雰囲気がかめず、学生間関係も築きにくくなり、代表者の負担が大きくなってしまったことが課題となりました。非対面と対面それぞれに、良い点と悪い点があることに気づき、時と場合にに応じて両者をバランスよく行っていきたいです。

活動を通して学んだこと

私が学んだことは、人とのつながりの大切さです。活動を通じて多くの同級生や先輩方と知り合うことができました。コロナ禍のオンライン講義で1年生の私は不安を感じることがありましたが、それを共有し相談できる仲間と出会えたことで1年間が実りあるものになったと感じます。

山田 裕貴（法学部1年）

私がこの1年で学んだことは、コロナ流行中にHホームとして活動することの意味です。地域とホームとの繋がりが途絶えかねない昨今の情勢の中で、Hホームとして何ができるのか考えることは、今後の活動のために、また、自分の将来にも生きる貴重な経験だったと思います。

竹節 香穂（人文学部3年）

今年度はコロナ禍の影響で人と人とのつながりが希薄になっていき、地域とのつながりや学生間でのつながりの大切さを実感した一年となりました。また、一人ではできることに限界があり、協力して取り込むことが大きな力になるとわかりました。

高橋 佳士（人文学部2年）

コロナ禍で苦労の1年でしたが、例年通りの活動が出来ないからこそ新しい側面から活動を考えることができました。みんなで積極的に意見を出しながら日々模索していて、心強かったです。元通りの生活に戻った時、より活気あるHホームと内野地域になるよう盛り上げてほしいです。

佐藤 真末子（農学部4年）

今後に向けて

昨年度までは当たり前だと思っていたことができなくなり、悔いの残る1年となりましたが、シンポジウムでは「SNSで情報発信をして内野を知ってもらいたい」「ネット環境を整えて地域の方とも交流したい」といった現状を打破したい前向きな考えが拳がり、地域の力になりたいという原点に立ち返ることができたのではないかと感じています。今年度を振り返ると、情報共有が充分に行えなかったことから、他力本願で特定の人に仕事が集まってしまうことが多々ありました。学生間の協力できる体制づくりを築き、学部・学年を越えて互いに刺激しあえればと思います。今後は、例年作りたいた言っていたけれど、実現できていなかった「内野マップ」の作成やSNSでの情報発信を主に進めていこうと考えています。そして、今年行えなかったHホームの活動を絶やさず、繋いでいけるように上級生からの引き継ぎにも力を入れて取り組む必要があると感じました。

コロナ禍という異質な1年の中で私たちにできることは何かを考えるきっかけとなりました。慣れないことばかりで反省が多く得られた1年でもありました。この反省をいかし、来年度は「つながりを作り、地域を知ること」を活動目標に掲げ、この状況だからこそその活動を行っていこうと思います。

活動地域より

私たちが皆さんに期待することは、新川ほたるに参加、ご協力頂く事は、もとより、内野町の自然や環境、文化を見て感じて頂き、私たちと話し合い、感じたことや、共にやれる事を聞かせてください。皆さんと思いを形にできる日が来ますよう。

新潟市西区内野 長谷川 西雄 様

担当教職員より

今年度は新型コロナのため思うような活動ができないなか、オンラインでホームミーティングを開催してきました。来年度は、この経験を活かしつつ、地域の方のご意見もいただいて少しずつ交流を再開していきましょう。ホームのメンバーであることを考えていきましょう。

工学部 寺口 昌宏

活動記録（2020年4月～2021年3月）

- 4月
- 5月
- 6月
- 7月 オンライン地域実習
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月
- 12月 内野マップ作成開始
- 1月
- 2月
- 3月



2019年6月29日 内野小ワークショップ



2019年12月21日 新大ランド

**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生9人、2年生8人、
3年生2人、4年生4人、
教員2人、職員3人

活動地域： 長岡市栃尾地区

関連団体： 栃尾商工会、栃尾観光協会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物

マスコットキャラクター



SNS 投稿用画像

活動目的と概要

私たちあいホームは、大学から車で一時間ほどの場所にある長岡市栃尾地域で活動しています。栃尾地域は、自然に囲まれ行くたびにその時々美しい景色を見ることができます。また栃尾地域は地域行事が多く、私たちだけではなく他の団体も活動に参加しており活気あふれる街です。

私たちは伝統工芸品の手毬を作成したり、とちお祭の参加などを通して栃尾地域を大学生の力でさらに盛り上げるべく活動しています。

活動目標の達成状況**【地域活動について】**

今年度の活動目標は大きく分けて①活動再開に向けてモチベーションと人数の維持、②SNS を開設し、広報活動の拡充と紙媒体での広報活動の継続、の2点でした。

①ホームのモチベーションについては、今年度は直接現地に赴くことが全くできなかったために、例年と同じレベルでの学びは得ることができませんでした。しかし SNS の開設などの例年ではできなかった活動をはじめとして新しい活動を始めることができたために、例年とは異なる方法や地域の人々の活動について考えるきっかけになったと考えています。

②SNS の開設と紙媒体での広報活動については、10月より Twitter を開設し、あいホーム並びに栃尾を内外に発信する媒体を作成することができました。しかし直接訪問がかなわないために、アカウントを作成したのはいいものの不完全燃焼になってしまいました。紙媒体での発信も満足に行うことができなかったため、来年度は、SNS の更新頻度や内容についても充実したものにし、紙での発信も同時に行うことができるようにしたいです。

【ホーム運営について】

活動を円滑に進めるためのホームの組織運営として、

- ①ミーティング参加学生に負担が生じないよう調整を行う、
 - ②多くの人がミーティングに参加できるような仕組みを作る、
- の2つを運営上の目標として活動してきました。①については、議事録の作成を交代に行ってもらったり SNS についても投稿内容の作成を分担しました。しかし情勢上仕方なかったという面もありますが、下級生にあまり仕事を振ることができず、上級生に負担を強いる形になってしまったことが反省すべき点です。②については、各チームごとにミーティングを行う曜日を固定したり、ZOOM ミーティングと対面ミーティングを並行して行うことで一定数の参加者数を確保することができました。しかしメンバーの固定化によって参加メンバーに偏りが出てしまったり、少数の人によってミーティングが進んでしまうという弊害も生じました。今後の課題として、満遍なく意見を振る事で積極的な参加を促したり、少数の意見も考慮に入れながら、上級生下級生問わず積極的に発言できるようにしていきたいです。

活動を通して学んだこと

今年度は実際に栃尾に赴いて活動することができませんでしたが、発信のための SNS 開設やキャラクターの作成など非対面ながら地域を思って活動を行うことができたと思います。コロナ禍の困難な時代において自分たちにできることを考え、日々精進する大切さを学ぶことができました。

田中 文也 (人文学部 1 年)

今年度の活動を通して、自身の無力さを痛感するとともに、今年度のような予期せぬ事態に対応するために計画を練ることと、それを実行するための協力の大切さが身に染み込んだ 1 年でした。今年度の教訓を直接地域に赴くことができた際に活かすことができればと思います。

関 純菜 (人文学部 2 年)

私が今年度ダブルホーム活動を通して学んだことは、自主的に考え、活動することの大切さです。先の見えない状況の中での活動は、難しさもあり大変でしたが、この経験をポジティブに受け止め、来年度は新 2 年生を中心に協力して、新 1 年生を引っ張っていけるように頑張りたいです。

長田 華佳 (創生学部 1 年)

今年度は地域訪問が出来ず、これまで先輩方が積み重ねてきたものを実感するとともに自分たちの力不足を実感する 1 年でした。そうした中、Twitter を新たな取り組みとし、1 年生とも協力する事が出来たことは成果の 1 つです。地域の方と直接お会い出来る日が待ち遠しいです。

星加 那夏子 (農学部 2 年)

今後に向けて

今年度は、地域に直接赴いて活動できない分、大学周辺でできる活動を中心にして行ってきました。今年度の活動を通して、地域訪問を行うことができない状況で出来ることを精一杯行うことができたのではないかと考えています。SNS などの電子媒体での広報が可能になり、あいホームを今まで知らなかった地域の方々にも知ってもらえる機会を作ることができたと思います。しかし、地域の人とのつながりにおいては、Zoom やメールなどを使って交流を行いましたが、交流の機会や幅が例年よりも縮小してしまったので、そこは来年度の課題になると考えています。来年度は、今年度新たに作り上げた活動を継続しつつ、栃尾地域に直接赴くことで活動に幅を持たせたいです。そのためには、地域の方々との連絡を密にとり、計画を迅速に行っていくことを目標に活動をしていきたいと思っています。ホーム運営では、平等に担当を割り振り、負担が一方に偏らないように役割分担を行っていきたくたいです。

来年度はより地域の人々との交流を重視し、今年度より一層栃尾地域を知り、盛り上げ、栃尾地域に愛されるホームにできるように活動していきたくたいです。

活動地域より

日頃より栃尾地域に目を向け地域を学んでいただいていることに、心から敬意を表します。

本年度はコロナウイルスが全世界に拡がり、活動が思うように遂行できない日々が続いていますが、1 日も早く事態が収まり、皆さんと交流を図れることができるよう、楽しみにしています。

栃尾商工会青年部 松生 健太 様

担当教職員より

新型コロナウイルスの影響の中、ホーム活動を毎週ズームで行い、在学生は 1 年生に気を配りながら一生懸命ホーム内を盛り上げ、1 年生は栃尾のマスコットキャラクター製作を手掛けるなど、素晴らしいチームワークで 1 年間活動しました。これからも「あい」のある活動を心掛け頑張っていきましょう。

医歯学系管理運営課 服部 正人

活動記録 (2020 年 4 月～2021 年 3 月)

- 4 月
- 5 月
- 6 月 あいホーム広報発行
- 7 月 オンライン地域散策、今年度の活動について地域の方々とは話し合い
- 8 月
- 9 月 マスコット作成
- 10 月 SNS 開設
- 11 月
- 12 月
- 1 月
- 2 月
- 3 月



12 月 25 日 対面ミーティング



2019 年度撮影

ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 11 人、3 年生 6 人、
4 年生 3 人、
教員 2 人、職員 2 人、
フェロー 1 人

活動地域： 山形県小国町樽口地区

関連団体： 樽口観光わらび園

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



料理コンテスト



料理コンテスト

活動目的と概要

「J」ホームが活動している山形県小国町樽口地区では、集落全体で「樽口観光わらび園」の運営を行っており、私たちはそのわらび園のお手伝いを中心に活動しています。樽口地区を盛り上げるための大学生らしいアイデアを地域に提案することを目指し、地域を理解するための土台をつくる活動を行ってきました。また、新大祭などの機会を利用してわらびの広報活動も進んで行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度「J」ホームは、「地域との対話～一步前進～」をテーマに活動してきました。新型コロナウイルスの流行で地域での活動が制限されたため、今年度は地域へ訪問することができず、残念な 1 年となりました。そのため地域の方との対話も十分に行えず、テーマは未達成となってしまいました。来年度はウイルスが収束し、地域へ訪問できることを祈るばかりです。

地域を訪れなくともできる新たな活動として、樽口の食材を広めることを目的に、「料理コンテスト」を開催しました。樽口産のわらび、地鶏、マイタケを用いて料理を作り、SNS でその美味しさを競い合いました。樽口を訪れたことのない新入生も樽口の食材に舌鼓を打ち、地域を知る良い機会となりました。また今年度はかわら版を 2 回発行しました。2 回目は新入生を中心に作成し、新入生同士の絆を深められました。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営についての目標は「ホームの学生内で、目的や活動趣旨を把握する」「地域の方々と学生みなが関わる形を作る」「ミーティングの参加率を高める」、この三つでした。まず一つ目は、あまり達成できませんでした。地域に行ったことのある 3 年生が中心となって活動を決定し、一年生にはあまり目的が伝わらないまま活動させてしまったからです。二つ目は、地域の方との交流がままならず上手くできませんでした。ただ、ホーム内実習の際には一年生ほぼ全員が地域の方と交流することができ、良かったです。三つ目については、ほぼオンラインミーティングの中で健闘したと思います。最初は新加入生への配慮が足りず、上級生しか話せないミーティングばかりでした。その後ブレイクアウトルームを活用したり、一年生が中心の企画を行ったりするなどして、次第に改善したように思われます。また、ホーム内の交流を促進するために何度かオンライン交流会を行いました。課題が忙しい中、多くの人に参加し、普段のお昼のミーティングではできない話ができ、お互いの距離が縮まったと思います。

来年度も今年と同じようにオンラインでの活動が多いと予想されますが、今年一年の経験を活かして協力しながら活動できたらと思います。

活動を通して学んだこと

コロナの影響を大きく受けたこの1年、地域での活動が叶わず、リモートでの交流や地域に行かない中での活動が続きました。まだまだコロナは終息せず、実際に樽口に行けるかはわかりませんが、行けた際は行けなかった分も樽口に貢献したいです。

野村 悠仁(工学部1年)

今年度は、コロナ禍のため地域に訪問することができず、活動も制限された1年でした。その中でも自分たちなりにできることを、ホームの人びとと話し合って活動していました。このような活動を通して、話し合うこと、自分の意見を伝えることの大切さを学んだ1年となりました。

佐藤 楓子(法学部3年)

地域訪問ができない中、新たな活動の形を模索した1年でした。オンラインだからこそ、ミーティングを柔軟に開催でき、異学年間の交流が深まったと感じています。来年度は、今年度注力した情報発信を継続しつつ、地域活動を再開できればと願っています。

高野 楓己(工学部3年)

人の移動が制限される中で、いかにして地域との繋がりを深めるかが問われた一年でした。例年の中距離恋愛から遠距離恋愛になり、もどかしい思いが目立ちました。しかし、そんな時だからこそ、これまで培ってきた信頼関係を信じ、前向きな行動を続けることの大切さを学ぶことができました。

砂塚 大気(農学部4年)

今後に向けて

今年度は地域での活動を行えなかったため、来年度は地域の方との交流を深めつつ、わらび園開園のお手伝いができればと考えています。活動は5、6月が中心とはなってしまいますが、その短期間の活動が地域の方、もちろんJホームにとっても充実した中身の濃いものになっていけるように、振り返りやミーティングの方法を工夫していき、日ごろのホーム内での話し合いや、ホーム間での情報の共有・引継ぎを怠らないようにしていきたいと思います。地域に直接訪問できない中で、自分たちができることを考え、今だからこそできる活動を行えればと思っています。

さらに地域活動での地域の方との交流においても、これまで以上に、樽口へ訪問する度に談笑やインタビュー、話し合いを積極的に行い、交流を深め、将来のJホームを少しでもより良いものにつなげる糧を見つけ出します。学生と樽口の方お互いが、負担にならず支え合っていけるような関係を築けるように努力していきたいと考えています。

活動地域より

今年度は新型コロナウイルスの影響でわらび園が開園できませんでした。いまだにコロナウイルスは猛威を振るっておりますが、来年度は開園する予定です。開園に伴って、学生のみなさんにお手伝いいただきたいです。みなさんとお会いできるのを楽しみにしております。

小国町樽口地区 佐藤 和美 様

担当教職員より

例のない異常事態の中、大学からの制限もあり、ホーム活動は試行錯誤の連続だったかと思います。当たり前にならなくなった今こそ、活動の在り方や地域との繋がり方を見つめ直す機会です。ピンチはチャンスですので、柔軟かつ斬新な発想で難局を乗り越えてくれることを望んでおります。

法学部 石畝 剛士

活動記録 (2020年4月~2021年3月)

- 4月
- 5月
- 6月
- 7月
- 8月
- 9月
- 10月 料理コンテスト(SNSでの投稿)
- 11月 かわら版発行
- 12月
- 1月
- 2月
- 3月



10月 料理コンテスト



11月 かわら版



2019 年度撮影

ホームの概要

メンバー構成： 1 年生 8 人、2 年生 8 人、3 年生 9 人、教員 2 人、職員 2 人

活動地域： 新潟県加茂市

関連団体： 加茂青年会議所

加茂商工会議所青年部

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



2019 年度のまちあるきでは、K ホーム、教職員、新潟経営大学、地域の方々とグループを作り、加茂の魅力や課題について議論しました。



2019 年度のあかりばで、K ホームは光るうちわづくりのブースを出展しました。子どもたちにも人気が高く、出展を成功させることができました。

活動目的と概要

K ホームは新潟県加茂市で活動しています。加茂市は落ち着いた町並みから古くより「北越の小京都」と呼ばれています。私たちK ホームは大学生であるからこそ生まれる新鮮な発想をいかし、多くの方々と協力したうえで、加茂市の魅力を探索・共有することを目的としています。「加茂ってすごいカモ！プロジェクト」によって、「学生」「地域」「外部」という三角形を形成し、交流を活性化させることを主眼とした活動を行っています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

私たちK ホームは大学生であるからこそ生まれる新鮮な発想をいかし、多くの方々と協力したうえで、加茂市の魅力を探索・共有することをホームの大きな目標としています。昨年度の活動では学生と地域の方が注目する視点は大きく異なり、その違いを認識することは新たな魅力と課題を発見し、アプローチをするきっかけになるのではないかと考えました。まず、6 月に行った上級生による加茂のまちあるき、7 月の地域実習をオンラインで開催しました。加茂市をすでに知っている学生も、まだ加茂市について深く知らない学生からの視点によって、新たに気づかされた魅力や自由な発想を考え出すことができました。また、加茂の地域の方から学生を中心に活性化した加茂をつくってほしいとの声もお聞きしました。加茂市には小学校、中学校、高校、大学が集まっており、言い換えれば学生が多く集まる、活気にあふれる地域とも言えます。そこで地域プロジェクト発表会では、K ホームと加茂市の学生が Zoom を用いて交流する場を作り出すことを新加入生が検討しました。このように今年度は、今までの活動にない視点から加茂市の活性化に向けた地域活動が達成できました。

【ホーム運営について】

昨年の活動では、学生間でもミーティングの出席率に差があったことに加え、今年度は活動が大きく制限され、満足のいく活動を行うことが難しくなるのではないかと不安でした。そこで今年度は、コロナ禍の中でも積極的にミーティングを開催し、話し合う機会を多く作ることを目標にしました。週一回のミーティングに加えて、地域の方を招いた共同ミーティングの開催など、ホーム内で地域の魅力と課題、加茂をどのように活性化していくかなどのビジョンを共有することに成功しました。一方で、ミーティングの参加率は新加入生以外あまり高くありませんでした。なるべく多様な意見交流をするためには、今後参加率を上げる努力をすべきだと考えました。ただ、対面ミーティングは参加する学生も多かったため、今後はそのような機会を積極的に設け、話し合いだけを行うのではなく、交流の場を設け、「参加して楽しかった」と思えるようなミーティングを目指していきたいです。

活動を通して学んだこと

同学年の仲間や先輩たち、地域の大人たちなど老若男女様々な人たちとの会話を通じて、私はコミュニケーションスキルを高められたと思います。今後オンラインでの活動も対面の活動も増えていく予定なので、様々な場面で活かしていきたいです。

松原 啓 (教育学部1年)

私は活動を通して、地域の方がとても積極的に活動に取り組み、私たちの活動を心待ちにして下さっていることを学びました。私たちも真剣に地域と向き合うことが重要であると思いました。また、期待に応えられるよう、リモートでも出来ることを考え活動していきたいです。

橋本 樹里花 (農学部2年)

今年私は、去年と違って活動地に行くことができませんでしたが、その中でも前向きに活動する姿勢を学ぶことができました。地域の方とzoomミーティングをした際にこの状況下でもうまくコミュニケーションを取る方法などを試行錯誤していて、自分たち学生も頑張らないといけないと感じました。

土肥 あかり (農学部2年)

私は活動を通して、地域の方がとても積極的に活動に取り組み、私たちの活動を心待ちにして下さっていることを学びました。私たちも真剣に地域と向き合うことが重要であると思いました。また、期待に応えられるよう、リモートでも出来ることを考え活動していきたいです。

本間 麻衣 (工学部3年)

今後に向けて

シンポジウムでは、現状の活動に感じていること・足りないことについて、Kホームと地域の方が率直な意見を交わしました。そこで出た意見として、そもそもホーム内の学生のつながりが薄いことに加えて、活動のモチベーションを保つことが難しいという意見が出ました。Zoomのミーティングでは発言の機会は少なく、思うようにコミュニケーションがとれないということから、今後は対面ミーティングの開催を増やし、行きたい・話したいというミーティングづくり、交流の場を目指していきたいです。

また、加茂市で始まった「ぶらかも」について、1月に先生にお話をお聞きしました。「ぶらかも」とは、有志の保護者の方々による、将来を担う加茂の子どもたちに対し、加茂の豊かな地域資源を活用して楽しく学ぶためのプラットフォームの提供を行うグループです。Kホームはこれまでの活動に加えて、「ぶらかも」と連携し、加茂の子どもたちに新たな提案や活動を行っていきたいと考えています。現時点では、「ぶらかも」でやってみたいことについての概要と目的を検討している最中ですが、今後は活動の実現に向けて努力していきたいです。

活動地域より

かもろにの皆さんとの活動が、コロナ禍において制限され、非常に悔しい思いをしました。加茂のこと、魅力をたくさん共有したかったです。ウィズコロナの時代、「できない」を「やる」に変える「工夫」の大切さ。これからも一緒に「工夫」していきましょう。

加茂商工会議所青年部会長 坂上 満 様

担当教職員より

地域に赴いて実施する活動の再開に向け、ホームの仲間と活動計画を考え、前向きに議論している学生の姿は素晴らしいと思います。まだ活動環境に制限はありますが、ダブルホーム活動も含めて工夫して、大学生活を謳歌してほしいと願っています。我々教職員も応援します！

学務部入試課 小奈 裕

活動記録 (2020年4月～2021年3月)

- 4月
- 5月
- 6月 オンラインまちあるき
- 7月 オンライン地域実習
- 8月
- 9月
- 10月 対面ミーティング開催
- 11月
- 12月 シンポジウム
- 1月 ぶらかも講演会
- 2月
- 3月



2019年9月14日 あかりば



2019年12月14日 シンポジウム



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 10人、2年生 11人、
3年生 2人、4年生 3人、
教員 2人

活動地域： 新潟市西区坂井輪中学校区

関連団体： 坂井輪中学校区まちづくり
協議会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



Instagramでの郷土料理紹介



郷土料理冊子

活動目的と概要

L ホームは寺尾駅周辺の坂井輪中学校区で活動しています。私たちは例年、子ども食堂のお手伝いや、郷土料理教室の開催、地域行事への参加などの活動を行っています。今年度はそれらの活動に代わり、Instagramの投稿や郷土料理冊子の作成に力を入れました。「地域とつくる大きな輪～坂井輪で繋がる L ホームに～」というテーマのもと、ホームメンバーでアイデアを出し合いながら、コロナ禍でも地域の方との繋がりを絶やさずに活動することができました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

まず、年度はじめの地域プロジェクト発表会で、新たにダブルホームに加入した1年生が「コロナ禍で活動に制限が多い中でも地域活性化のためにどのような活動ができるか」について考え、提案してくれたことが、L ホーム全体の活動に大きな影響を与えました。この発表会を通してホームのメンバー一人ひとりが「コロナ禍の状況下だからこそできることをしたい!」という気持ちをもって、真剣に活動と向き合うことができました。

そして実際、提案を踏まえ、今年度は主に2つの活動を行いました。1つ目はInstagramへの投稿です。主にホームのメンバーが、出身地域の郷土料理の紹介を行いました。様々な地域の料理を知ることによって、受け継がれてきた地域の良さを実感することができました。2つ目は郷土料理冊子の作成です。私たちは昨年度行った郷土料理教室をきっかけに郷土料理に興味をもったため、今度は自分たちが、より多くの人に郷土料理の良さを広めたいと考え、冊子を作成しました。学生がInstagramに投稿した郷土料理から抜粋してまとめる過程で、坂井輪中学校区まちづくり協議会の女性支援隊の方々からもレシピのアドバイスをいただくなど、冊子の作成が地域の方との交流のきっかけにもなりました。

【ホーム運営について】

ホームミーティングは Zoom を利用して行いました。昨年度までは学年に関係なく発言できていましたが、今年度は顔が見られなかったり、発言のタイミングが掴みづらかったりと上級生中心の話し合いになってしまいました。メンバーと実際に会う機会が少なく、下級生の交流が十分でなかったことも原因の一つだと思います。年度の後半からは対面ミーティングで下級生の発言が活発になってきましたが、対面で参加できる人が限られており、オンラインを併用しつつ発言が促進される方法を考えるべきだと思いました。また、活動内容に合わせた担当を決めることによってミーティングの時間を効率的に使うことができました。来年度もオンラインを利用した活動が続きますが、直接一人ひとりに発言を促すなどしてホーム全体で活動していきたいです。

活動を通して学んだこと

ポジティブな側面を捉えることの大切さを学びました。新型コロナウイルスが流行し、乗り越える壁が増えましたが、その中でできることを模索し実行する過程で、この状況下だからこそ気づくことや得られるものがありました。活動するにあたってこのような心構えは大切だと感じました。

中曽根 史奈 (教育学部2年)

新型コロナウイルスの影響を受ける中、活動方法の工夫や考え次第で難しい状況をプラスに変えられると学んだことは、例年通りの活動を行えなかったからこそ収穫だと思えます。そして何より、私たちの提案に賛同し、協力してくださった地域の方々に本当に感謝しています。

関口 あみ (法学部2年)

私は、今年度のダブルホームを通して、誰かが発言しないと進まないという非対面での活動の中で話を回して下さる先輩のすごさや、小さな意見こそがミーティングの内容を充実させる鍵だということを知ることができました。ここでの気づきをこれからも忘れずにたいです。

永井 和 (医学部1年)

今年度は一切地域での活動ができない中、これまでの活動や地域の人とのつながりを踏まえた活動をするのができないか、ということ全員で考え、実行してきました。その中で、地域の人の視点に立つこと、求められていることを客観的に考えること、といった学びができたと思います。

冨樫 涼音 (法学部1年)

今後に向けて

今年度はコロナ禍の制約により試行錯誤の1年になりましたが、いつもと違った角度から物事を考えることができたため、たくさんの学びがありました。例年は、地域の行事に参加するなど受け身の活動が中心でしたが、今年度は郷土料理冊子の作成やInstagramへの投稿など学生のアイデアから自発的に生まれた活動が多くあり、コロナのおかげでホーム全体が大きく成長できたのではないかと感じています。例年の活動ができないからと悲観的になるのではなく、新しいことができるチャンスだと前向きにとらえられたことで、積極的に活動することができました。

しかし一方で、オンラインで交流する難しさも感じました。今年度の見えた課題を踏まえて、来年度は学生間のミーティングや地域の方との交流の仕方については、今一度ホームで話し合おうと思います。

来年度も積極的な姿勢を保ちつつ、「今、このような状況で自分たちは地域のために何ができるのか」ということを改めて考えていく必要があると感じています。今後も、感染対策は怠らず、坂井輪地域を盛り上げるために、皆で楽しく活動していきたいです。

活動地域より

例年行っている子ども食堂が開催できなかったのは残念でしたが、いろいろな工夫をして繋がり、学生と交流することができたのは、コロナのおかげだったと思います。来年度の活動も期待しています。

坂井輪中学校区まちづくり協議会会長 梶原 宣教 様

担当教職員より

大変な1年でしたが、皆さんが前向きに活動してくれたことに感謝します。対面・非対面のミーティングを重ねて、今できることを実践しようと取り組んだことは来年度以降の活動の礎となります。ホーム活動の新しいカタチを皆さんが創り出してくれることを期待します。

創生学部 澤邊 潤

活動記録 (2020年4月~2021年3月)

- 4月
- 5月
- 6月 坂井輪バーチャルツアー
- 7月 地域プロジェクト発表会
- 8月 Instagram投稿開始
- 9月
- 10月 郷土料理冊子作成開始
- 11月
- 12月
- 1月
- 2月
- 3月 郷土料理冊子完成



対面ミーティング



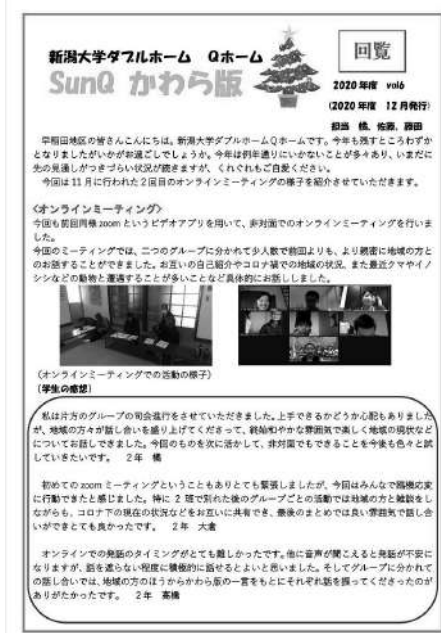
郷土料理冊子



ホームの概要

メンバー構成：1年生5人、2年生9人、
3年生8人、4年生2人、
教員3人、職員2人
活動地域：村上市早稲田地区
ミーティング：平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



毎月発行したかわら版

活動目的と概要

私たち Q ホームは自然豊かな新潟県村上市早稲田地区で、地域の歴史や伝統を学び、地域の方々と親睦を深め、早稲田を盛り上げようと活動しています。今年度は不定期発行だったかわら版を毎月発行し、地域の方を交えたオンラインミーティングを2回行うなど、対面での活動ができない中で少しでも地域の方々との交流ができないかと考え活動していました。来年度は今年度の活動を踏まえてさらに地域についての理解を深めていきたいと考えています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年度の地域活動の目標は、以下の2つです。

1つ目は、2019年度に行った新たな活動を踏まえ、オンラインを通して地域の方々との関係をさらに充実させることでした。今年度は、実際に地域へ行くことは叶いませんでしたが、オンラインで地域の方々と交流できました。2回行い、2回目のオンラインミーティングでは、ブレイクアウトルームを活用しました。

2つ目は、新たな活動を取り入れることも大切ですが、地域がダブルホームに求めていることは、地域によって違うため、今年度の目標としては、新たな活動に取り組むよりも、今ある活動をどう工夫したらより良いものになるか検討していくことでした。今年度は、実際に活動地域へ行くことができませんでしたが、成果もありました。今までも行っていたかわら版発行回数を増やしたことです。早稲田へ全く行けないから、何もしないのではなく、地域の方々と少しでもつながりを維持しようと試みました。地域の方からもかわら版の発行を増やしたことはつながりを保つためにも良いことだと仰っていただいたので、今後も続けていきたいです。

【ホーム運営について】

今年度のホーム運営の目標は以下の3つです。

1つ目は、下級生や先生との関係をさらに充実させる、『学年をこえた絆』を強くするために交流の場を増やすことでした。今年度は、対面で接する機会がなかったため、学年をこえたつながりを深めることができませんでした。Zoomで交流会などを実施しましたが、来年度は対面で交流する機会をコロナの状況を踏まえながら検討していければと感じています。

2つ目は、今年度は新入生も加入し、さらに人数が増えることが予想されるため、『役割分担の方法』を考えることでした。Zoomでの地域の方々とのオンラインミーティングでは、一人一人に役割を振って、みんなで協力してオンラインミーティングを開くことができました。誰か一人に負担が集中することが無く、行えたのは成果だと思います。

3つ目は、SNS (Facebook 等) の活用挑戦することでした。今年度は、Facebookを開設し、随時更新を行いました。しかし、一人だけが更新作業を行ってしまっていたので、来年度は、分担して更新するようにしていきたいです。

活動を通して学んだこと

地域に行くことができなくても、地域の方と交流するために何かできることはないかとホームメンバー間で話し合い、新しい交流のかたちを生み出すことができました。壁に当たっても、諦めずに話し合いを続けることが大切だと学びました。

椎貝 菜月（創生学部1年）

今年度は、地域の方と直接会うことは叶いませんでしたが、オンライン地域活動や、かわら版の発行など2年生を中心に積極的に活動している様子が印象的に残っています。今後どのような状況になっても早稲田とQホームはずっと続いていける、そんな自信を持つことができた1年でした。

皆川 裕香（農学部3年）

今年度は活動地域を訪れることができず、かわら版も地域の方との交流を伝える記事があまり書けなかった中で、今年度は活動地域にある神社を文献で調べ、記事を書く試みを行いました。実際に訪れて学ぶことはできなくとも、文献をもとにその地域について理解を深めることができました。

高橋 小春（人文学部2年）

4年になり、今年度は就活や卒論などもあったので、自分は活動の中心にはいませんでした。しかし1~2年生が積極的に意見を出している様子を見て、Qホームという組織が成長していると感じました。来年度は対面での活動ができるようになってほしいと思います。

吉原 和喜（教育学部4年）

今後に向けて

オンラインでの活動が中心になる中、シンポジウムでの話し合いは他ホームの活動や今後に向けた考えを聞くことが出来たので貴重な時間となりました。ホームごとに地域の特色や行っている活動は様々ですが、コロナ禍を受けての課題や今後の可能性には共通している部分もあったので、今後の活動を考える上で参考となりました。ホーム内での話し合いでは各自分科会で話し合った内容を共有しました。地域のパンフレットを作ったり自己紹介動画を送ったりするなど遠隔でもできる活動は応用できる面もありそうでした。情報発信についても単にSNSを多用するだけでなく地域内でダブルホーム活動を知ってもらう工夫が必要な事などが話し合われました。また、活動のマニュアル化をしたりすることで引き継ぎを円滑にする工夫が重要なことや、イベントなど形になるものを作ることで後世に成果を残すというような意見もありました。地域の方からは今後取組んで欲しい事柄についてもお話がありました。これらの活動も含め、シンポジウムで話し合った内容をいかしてコロナ禍でも充実した活動ができるよう努めていきたいと思えます。

活動地域より

令和2年度の活動大変お疲れさまでした。今まで経験のなかったオンラインミーティングやかわら版の発行などの活動も大変すばらしかったです。来年度はより交流ができると思うので早稲田自然体験ツアーの実現に向け企画を作ってください。早稲田に来ていただくことを楽しみにしています。

村上市早稲田地区 富樫 敏栄 様

担当教職員より

今年度は、教員しか現地に行けないという制約条件の中で、全学年の学生がたくさんのアイデアを出して、オンラインで地域の方々と交流することに挑戦してくれました。現地に行けずイメージのつかめない1年生に対する上級生のサポートも充実していました。来年度も大いに期待しています。

経営戦略本部 齋藤 有吾

活動記録（2020年4月～2021年3月）

- 5月
- 6月 Facebook 開設、かわら版発行
- 7月 かわら版発行
- 8月 オンライン交流会
- 9月 早稲田とオンラインミーティング、かわら版発行
- 10月 かわら版発行
- 11月 早稲田とオンラインミーティング、対面ミーティング、かわら版発行
- 12月 対面ミーティング、かわら版発行
- 2月 地域活動・学生発表交流会、かわら版発行



11月15日 早稲田とミーティング



12月10日 対面ミーティング



ホームの概要

メンバー構成： 1年生 10人、2年生 9人、
3年生 11人、4年生 7人、
修士以上 1人、教員 2人、
職員 2人

活動地域： 阿賀町七名地区

関連団体： 阿賀町上川支所、阿賀町勝
手に応援団、七福荘、地域
おこし協力隊、とんぼの会

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



8月24日 Rホームポスター

活動目的と概要

私たち R ホームは、山に囲まれた自然豊かな阿賀町七名地区を活動の拠点としています。七名地区はそばが有名で、従来私たちはそば作りを中心に一年間活動します。種まきから収穫、唐箕がけを経てそば粉にし、最後は地域の方にそばをふるまいます。また、七福の里祭りや上川そば祭りなどのお祭りにも参加し、地域の方との交流を深めます。一昨年度からは七名地区のことを知ってほしいという思いから活動報告にも力を入れています。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

コロナの影響により、Rホームのプロジェクトテーマである「そば作りを通じた地域の方との交流」ができませんでした。その代わりに、今年度のRホームでは「昨年度力を入れた広報活動を継続してより多くの人にRホームについて知っていただく。そして、地域に対する理解を深める」ことを目標にし、活動に取り組んできました。

8月に地域の方に協力して頂き、本来6月に行くはずだった散策の代わりとして、阿賀町オンラインツアーを行いました。地域に一回も行くことができていない新加入生にとって、とても有意義な時間でした。また、各自の家でRホームを紹介するポスターの作成を行いました。それにより、地域についても理解を深めることができ、広報活動にも力を入れることができました。

しかし、直接地域に行くことができないため例年と比べると地域の方との交流が格段に減り、ホームと地域の方との活動に対する意識の差ができてしまいました。

【ホーム運営について】

今年度のホーム内の活動目標は四つ掲げていました。一つ目に、ミーティングでの発言しやすい雰囲気作り。二つ目に、活動ごとの目的確認、活動内容についてのブラッシュアップ。三つ目に、各メンバーへの役割分担。四つ目に、メンバー同士の交流です。

一つ目に関しては、あまり発言が少ない人にも話を振るなどの工夫をして改善することができました。

二つ目に関しては、活動中に話し合いを積極的に行うことで目的確認をすることができました。活動内容については、去年と全く異なった活動内容であるため、来年度の目標にしたいと考えています。

三つ目に関しては、ポスターやボードを制作する際に、数人に作る箇所を分けることにより役割分担をすることが出来ました。

四つ目に関しては、オンラインでの活動が主であったため、話かける人の偏りが少なく、満遍なく交流できたと感じます。しかし、オンラインで深く交流することは難しく、そこがこれからの課題であると考えています。

活動を通して学んだこと

学生や地域の人が集まってコロナ禍で何ができるのかを真剣に話し合った結果、自分一人では思いつかないようなアイデアをたくさん得ることができ、他の人の意見を知ることの重要性や喜びを学んだとともに、地域の人を求める事と学生がしたい事の認識のずれを確認できました。

土屋 拓生（経済科学部1年）

今年は地域のイベントなどが全てなくなってしまい、地域の方との交流もオンラインのみとなってしまいました。そんな状況だからこそ地域の方と積極的に交流する事で、今までより深くお話ができ、新しく気づくことがあるということ学びました。

山岸 思実（農学部3年）

私がこの一年を通して学んだことは、実際に地域の方と会って活動することの大切さです。2020年度はホームでの活動ができず、地域の方との交流も難しい状況でした。来年度はオンライン上での交流や、感染症対策をしっかり行った上でホームでの活動も再開していけたらと考えています。

青柳 光咲（人文学部2年）

Rホームでは、8月にオンライン散策を行い、地域の方がビデオを繋ぎながら車で移動して地域を紹介してくださいました。新しい形を作り上げる過程を見て、地域の方々の温かさを感じ、そして共に協力すれば制限された中でも活動が実現可能であることを学びました。

飯田 亮太（工学部4年）

今後に向けて

今年度のシンポジウムの話し合いで、交流回数の減少に伴う地域の方とホームメンバーの活動意識に差が生じていること、ミーティングの参加者や回数の減少が課題として挙げられました。

直接地域に行くことができなかったことが原因で地域の方との交流が難しく、活動内容、活動意識の共有があまりできていませんでした。今後は、一月に開設した地域の方とのLINEグループやオンラインミーティングを利用して、コロナ禍でも地域の方と密に交流していきたいと考えています。また、今まで以上に交流を深めるために、LINEでは活動の情報共有だけでなく日常的な会話を行う、Zoomではブレイクアウトルームを利用するなど工夫をしていきたいです。

ホーム内での活動としては、Rホームの長所でもある人数が多いことが原因で個々の活動への積極性が薄れてしまいやすいように感じます。今後は、ミーティングや活動を増やしてその中で役割分担を行い、各々が自覚を持って積極的に活動に参加できるようにしていきたいと考えています。また、地域の郷土料理を作るなどして地域への理解をより深めていきたいです。

活動地域より

コロナ禍の一年で、皆さんは大変な学生生活を送ってきたと思いますが、そんな中でも懸命に地域交流の手段を探る姿に感銘いたしました。もうしばらくは情報交流を主体にして、地域を身近に感じられるよう頑張ってください。コロナ禍は必ず収束されると思いますので。

阿賀町上川地区 石川 久作 様

担当教職員より

新しい形での活動方法について、一人一人が考えに考えた一年だったと思います。画面越しでも腹を割って語り合い、学生同士や地域の方々との距離がいつそう「密」になった部分は大きな収穫です。できることを模索し、実行に移した経験は困難を生き抜く力になると信じています。

人文学部 干野 真一

活動記録（2020年4月～2021年3月）

- 4月
- 5月
- 6月 新入生と地域の方との懇談
- 7月 地域の方と Zoom ミーティング
- 8月 オンライン上川地区ツアー
Rホームポスターの制作
- 9月
- 10月 Rホームボード制作
- 11月
- 12月
- 1月 地域の方とのLINEグループ開設
- 2月
- 3月



2020年2月23日 そば打ち練習会
(2019年度活動)



2019 年度撮影

ホームの概要

メンバー構成：1年生10人、2年生6人、
3年生5人、4年生2人、
教員2人、職員1人

活動地域：阿賀町中ノ沢

関連団体：NPO お山の森の学校

ミーティング：平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



S ホーム通信



ビデオレター

活動目的と概要

S ホームは阿賀町中ノ沢地区で活動しています。緑に囲まれた土地と地域の方々の温かさで、ほっと安心できるホームです。炭焼き窯やさいかみなど伝統のあるものや、透き通った美しい川や大きな天然杉など自然も豊かで、たくさんのおすすめポイントがあります。私たちは「楽しむ」を第一に掲げ活動しています。地域の方々は学生が中ノ沢で楽しく活動している姿を見て喜んでくださいます。S ホームでの活動を地域の方々と共に全力で楽しみ、さらにそこで得ることのできた中ノ沢の魅力や発見を発信していきます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

私たちの今年の活動目標の一つは、非対面でも交流することでした。今年は新型コロナウイルスにより活動地域に行くことができなかつたため、非対面でも行える S ホーム通信とビデオレターを作成しました。新体制となった S ホームの自己紹介や、中ノ沢での思い出、今後取り組みたいことなどを載せました。地域の方々に少しでも S ホームを身近に感じてもらえたのではないかと思います。

もう一つの目標は、活動地域である中ノ沢と阿賀町の歴史を学ぶことでした。各自興味のあることを、本を中心にまとめ、発表し合いました。阿賀野川が日本で有数の大規模な川であることや、中ノ沢が自分の地元と関わりがあったなど、学生一人一人に発見がありました。中ノ沢について詳しく学んだことで、実際に中ノ沢に行ったことのある学生も、そうでない一年生もより一層中ノ沢に興味を持ち、愛着を持つことができました。

【ホーム運営について】

年度の始まりに今年度の活動計画を立てると共にそれぞれの活動における責任者などを決めていました。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で状況が異なっており、Zoomでのミーティングや非対面で何ができるかなど、その時々での企画を達成させることに集中してしまい、上手く役割を分担し直すことが出来ず、負担が偏ってしまったかと思っています。しかし、そのような中でも、1年生の存在がとても力になってくれました。ホームに加入した当時の想像とは違いすぎる状況になってしまったのにも関わらず、本当によくついてきてくれたと思います。比較的、ミーティングの出席率もよく、ほとんど毎回出席してくれた学生もいるかと思っています。各企画に乗ってくれたり、ビデオレターの企画では DVD に落とす作業や編集を積極的にやってくれる学生もいました。状況が異なる中で様々な課題にぶつかりましたが、S ホームのメンバーであるからこそ課題を切り抜けてくることのできたかと思っています。非対面でのスキルも活かして、来年度はぜひ計画性と余裕をもって活動していきたいと思っています。

活動を通して学んだこと

実際に中ノ沢への訪問はできませんでしたが、会えないからこそ、中ノ沢の方が大学生と会うのを楽しみにしていることを知ることができたので、大学生と地域の方との交流が地域にとっても大切なものであるということを知ることができました。

小荒井 麗（法学部1年）

活動地域に行けないながらも、ビデオレターや中ノ沢学習会など新しくできたものもあり、達成感と新発見ができたこともありました。しかし、地域とのつながりを大事にする反面、ホーム間の交流に手が回らなかったことに悔いが残ります。学生同士の縦と横のつながりにも重視して、楽しいSホームを次の代に繋げていけたらと思います。

畠山 祥佳（経済学部2年）

私は、言葉にして気持ちを伝えることの大切さを学びました。非対面でも、手紙のたった一言で地域の方の温かさがよく伝わり、私もとても助けられました。気持ちを伝える一言が、よりよい関係の始まりだと気づきました。来年度は、自分から伝えることを意識していきたいです。

板橋 聖汰（工学部1年）

全く違う方法を模索する1年を通してこれまでの当り前の価値に気付かされ、そして限られた条件の下でも今まで取り組んでこなかったような新たな可能性を作り出す重要性を学びました。今あるもの、今できることを大切にしながら今後の活動に取り組んでいけたらと思います。

岩淵 由佳（農学部3年）

今後に向けて

今年度は例年通りの活動ができず、地域の方々との交流も難しかった一年でした。しかしシンポジウムの際のホームミーティングでは、地域に行けない中でもできることをやれた、阿賀町資料の輪読を通して地域に行きたい気持ちが強くなったという前向きな意見が学生から出されました。また、地域の方々とは来年度の活動についてどんなことができそうかお話することができました。そして、Sホームとして大切にしている「楽しむ」という精神も、地域の方々や卒業生の方との交流を通して再確認できました。来年度は、今年一年間手探りで様々な活動に挑戦した経験や、そこから得られた新たな視点を活かしてさらに挑戦を重ねていきたいです。ホームミーティング内で挙げられた、地域との交流、さらにSホームの学生間の交流をもっと深められるようにするというのがその中の一つの目標です。地域との交流を通して企画の幅も広がっていけばよいと思います。来年度も完全に今まで通りの活動はできないと思いますが、それでもみんなが楽しめる活動を考え積極的に挑戦していきます。

活動地域より

コロナ禍の中、昨年7月にはビデオメッセージ、正月には心のこもった年賀状、さいの神には大学産の銘酒までいただき本当にありがとうございました。若い皆さんからのパワーは地区の宝です。大変なコロナ禍ですが負けることなく今を大事に悔いなく生きてください。収束した暁には中ノ沢の大自然が待っているよ。

阿賀町中ノ沢地区 神田 惣一 様

担当教職員より

今年度は中ノ沢地区に訪問できない中、手紙やビデオレターを通じた地区の皆さんとのつながり、阿賀町に関する資料の輪読を通じた地域の理解・発見など、新たな成果があったと思います。来年度はこれを活かして、中ノ沢地区でみんなが笑顔で元気になる活動をしたいですね。

経営戦略本部評価センター 関 隆宏

活動記録（2020年4月～2021年3月）

- 4月
- 5月
- 6月 お手紙・質問
- 7月 地域の方と Zoom、ビデオレター
- 8月
- 9月 Sホーム通信
- 10月
- 11月 輪読（～1月）
- 12月
- 1月 年賀状
- 2月
- 3月



6月5日 地域の方へのお手紙



7月20日地域の方と Zoomでおしゃべり



ホームの概要

メンバー構成：1年生10人、2年生6人、
3年生4人、4年生3人、
修士以上1人、教員2人、
職員2人

活動地域：十日町市松之山下川手地区

関連団体：

ミーティング：平日昼休み週1回程度

成果物・制作物



1年生自己紹介カード

直接会って自己紹介をすることができなかったため、趣味や特技などを書いたメッセージカードを下川手の方々に送りました。

活動目的と概要

私たちは例年、下川手集落で無農薬、無肥料の米作りを行っています。今年はやそよ作りや生き物観察など、米作りに加えて生き物との共生にも目を向けた活動を行う予定でした。しかし、下川手での活動を行うことができなかつたため、非対面のできる活動を考え、より多くの方に美人林の情報を伝えるためにパンフレットの多言語化を行うことにしました。下川手集落の皆様にご意見をいただきながら、完成に向けて作成に取り組んでいます。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

今年は、「美人林のパンフレットの多言語化」と「地域の方とのオンライン交流」を主な活動として行いました。

パンフレットの多言語化は十日町市観光協会のパンフレットをもとに英語と中国語への翻訳を目指しています。美人林の春夏秋冬の様子やアクセス方法などに加え、下川手の方々にアンケートを行い、新たな情報を付け加えて作成する予定です。このパンフレットが日本だけでなく海外の方に、より美人林の魅力を知ってもらえるものになるようにメンバーで分担しながら取り組んでいきたいと思ひます。

地域の方とのオンライン交流会ではオンラインという初めての環境に戸惑うこともありましたが、下川手の皆様とお話することができ、とても有意義な時間となりました。特に下川手での活動をしたことのない1年生にとっては自己紹介ゲームや下川手の皆様からのお話などを通して自分のことを知ってもらうとともに下川手の皆様の雰囲気や下川手の様子を知ることができる良い機会になったと思ひます。

【ホーム運営について】

今年度の運営目標としては①情報の伝達・共有、②ミーティングの改善、③勉強会の3つを掲げていました。しかし、勉強会は今年度実行することができなかつたため、来年度から力を入れて取り組んでいきたいと思ひます。

情報の伝達・共有、ミーティングの改善においては、週に1度のミーティングで毎回、活動に関する議題を用意して話し合い、ミーティング後には話し合った内容をメールで共有するなど、参加できなかった人への配慮をすることができました。しかし、ミーティングの進め方に関してはまだ改善の余地があるので、メンバーがより積極的に意見を言い合えるよう引き続き工夫しながらより良いミーティングを行えるようにしていきたいです。

また、この3つの目標のほかに運営として会計係を決め、口座開設をしました。さらに美人林のパンフレット作成においては、効率的に翻訳を進められるようホーム内で2つのグループに分け、メンバー間で役割を振り分けて取り組んでいます。

活動を通して学んだこと

私がダブルホームで学んだことは自主性の大切さです。今年度はコロナウイルスの影響で毎年行っている活動はできなかったため、コロナ禍でできる活動を考えてところから始まりました。来年度は後輩が入ってくるので今年度以上に積極的に参加していきたいです。

永野 華 (経済科学部 1年)

今年度はいろいろな制約があった中、新たな活動に挑戦することができました。私はその中で行動を起こすことの大切さを学びました。今後も引き続きメンバーと連携を取り、地域に貢献できるような活動を推し進めていきたいです。

喜多川 優 (農学部 3年)

今年はコロナウイルス感染拡大でイレギュラーな形にはなりましたが、新しい活動を含め工夫をしながら進められました。まだまだ改善点はありますが、普段の活動を見直し、コミュニケーションの大切さや活動の計画、進行について改めて学ぶことができました。

高祖 遼太郎 (人文学部 2年)

私は連絡と継続の大切さを学びました。今年は対面での活動が行えず、zoomでのミーティングや地域の方との交流が主な活動となりました。今後、ほりごたつの活動がどのように発展していくか期待しています。

今野 光康 (農学部 4年)

今後に向けて

下川手での活動が可能になった場合、感染対策に十分留意しながら米作りを行うとともに、今年度から行う予定だった生き物観察も活動に加え、「米づくりと生き物の共生」を考えながら活動に取り組んでいきます。そして、下川手の方々から活動を通してたくさんのことを学ぶだけでなく、ホーム内で勉強会を開き、自分たちで学んだことも活動にいかしていきたいと思えます。

現地に行けない場合でも美人林のパンフレットの多言語化を継続して行い、新しくSNSを利用した活動なども進めたいと思います。美人林のパンフレットの多言語化では、翻訳に苦戦する言葉や文章もありますが、下川手の皆様の意見やホーム内での話し合いを通して、さまざまな国の観光客の方が美人林を訪れた際に利用し、役立てていただけるようなパンフレットを作成できるよう完成に向けて取り組んでいきます。また、SNSを利用した活動では、アカウントを作成し、より多くの方にほりごたつの活動や下川手の魅力を発信していければ良いと思っています。さらに今年度以上に下川手集落の皆様との交流を行いたいです。

活動地域より

Tホームの皆さん、今年はリモートでの活動だけでしたが、参加された方一人一人としっかりお話ができ充実した時間が過ごせました。また、皆さんからお手紙をいただき、大変元気をいただきました。令和3年度が充実した学生生活を送れることを信じています。

十日町市松之山下川手地区 高波 悟 様

担当教職員より

この1年は、地域を訪れることができず、非常に厳しい状況の中での活動でした。そうした中でも、工夫を凝らしたオンライン交流会など、今できることを考え、実行に移すことができました。先の見通せない状況ですが、来年度も、ともにTホームを盛り上げていきましょう。

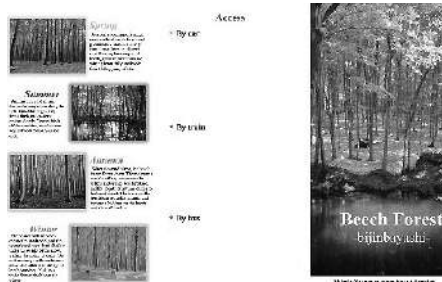
財務部 小野田 遼

活動記録 (2020年4月~2021年3月)

- 4月
- 5月 生き物観察フォーマット作成
- 6月 ホーム内実習
- 7月 地域実習
- 8月
- 9月 パンフレット作成開始
- 10月
- 11月 地域の方とのオンライン交流
お礼の手紙作成
- 12月
- 1月 さいのかみ
- 2月
- 3月



11月15日 オンライン交流会



美人林パンフレット



ホームの概要

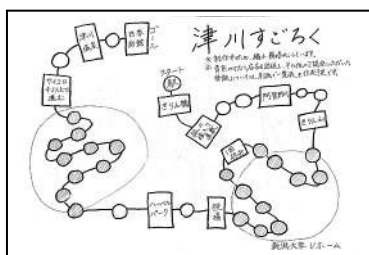
メンバー構成： 1年生 11人、2年生 5人、
3年生 3人、4年生 2人、
教員 3人

活動地域： 阿賀町津川地区

関連団体： 阿賀町役場

ミーティング： 平日昼休み週 1 回程度

成果物・制作物



津川すごろくの下書き



畑で収穫されたじゃがいも

活動目的と概要

私たちは四季彩館というログハウスを地域の方々が集まる、コミュニケーションの場とし地域活性化に繋げることを目標として活動を行っています。今年度は「地域の方との繋がりを絶やさない」を目標に掲げ、非対面でも地域の方と繋がる方法を模索しました。具体的には、阿賀町すごろくを制作し地域の方に使ってもらうことや、地域の方から写真を集め 1 枚のモザイクアートを制作すること、地域の方に畑で収穫された野菜を送ってもらい料理してメンバーみんなで食べることを考えました。

活動目標の達成状況

【地域活動について】

私たちは今年度二つの活動目標を掲げました。一つは、「非対面の活動であっても、地域の人との繋がりを絶やさない」です。非対面活動に限定され、実際に畑に赴いて活動することができなかつたため、地域の方に畑作業を代行してもらい、作物の成長を写真で送ってもらう形式をとりました。また、畑で収穫された作物を頂き、その後感謝状を送りました。さらに、2 回ほど地域の方と Zoom の機会を設け、地域についてのお話を伺ったりすることができました。このような活動を通して地域の人との繋がりを保つことができていると思います。しかし、関わることのできる地域の方がかなり限られてしまったという課題も挙げられます。

二つ目の目標は、「来年度以降対面活動に移行した際スムーズに活動できるよう、オンラインでもホーム内で交流する」です。特に週に 1 回行っているミーティングで 1 年生が緊張せず会話に参加できるような雰囲気作りに努めました。途中から対面でミーティングを行うことができるようになり、より 1 年生同士、1 年生と上級生の親睦を深めることができました。

【ホーム運営について】

今年度は「役割を分担し、お互いに確認やサポートをしながら進める」「活動や現状を地域の方にこまめに報告する」という二つの運営目標を立てました。前者に関しては、主に運営に携わった 2 年生の中で役割分担を行い達成することができました。代替わりの際にホーム長以外の係も決めたことでそれぞれの仕事が明確になり、スムーズに活動することができました。ただ、ミーティングに参加できなかったメンバーに対しての情報共有が難しく、仕事内容を上手く伝えられなかったこともありました。

後者の目標に関しては、あまり達成できたとは言えない状況でした。メールや手紙のやりとりは行っていましたが、頻繁に活動状況を伝えることはできず、一部の報告のみとなってしまいました。私たちがどのような活動を行っているのか、活動はどこまで進んでいるのかなど、具体的な状況を可能な限り多くの地域の方に伝え、活動を分かりやすくできていたらさらに良かったと思います。

活動を通して学んだこと

今年度のダブルホーム活動を通して学んだことは工夫をすることで、出来ることが増えていくということです。今年度のダブルホーム活動は基本的にオンラインで行われましたが、そのような状況で何が出来るのか考え、工夫をして実行に移すことが出来ました。

金子 亮雅（農学部1年）

地域に行けない中、新しい試みとして津川すごろくを制作しました。今できることをやりたいという思いで始めましたが、結果的に1年生が地域の理解を深めることに繋がったり、地域の飲食店の方と関わるきっかけになったりしました。動き出してみることが大切だと学びました。

深沼 瑞会（創生学部2年）

活動を通して学んだことは仲間と協力することの大切さです。特に、チームでパワーポイントのスライドを作成している時、自分1人じゃ何も案が出なかったスライドもあったという間に完成しました。また、地域の方々が私たちの活動にたくさんご協力して下さったことに感動しました。

中村 唯人（農学部1年）

私は今年度の活動を通して今できる最善を考える力が身についたと思います。今年度は新型コロナウイルスにより活動が制限されました。私たちは活動を一新し、オンラインで地域に貢献する方法を考え、実行しました。今後も皆と協力し今自分たちに何が出来るかを考えていきたいと思えます。

長尾 知哉（理学部3年）

今後に向けて

非対面活動が決定した当初は、かなり戸惑いがありました。Uホームは中でも新しい活動に踏み出すことができて良かったと思います。オンラインでの活動は目に見える成果が少なく、モチベーションに繋がりにくいという課題がありましたが、すごろくを形として残し、1年生にも積極的に仕事を分担したことで、ホーム内での結束を強めることができました。ホーム内だけでなく、区長さんにお礼の手紙を送ったり、Zoomでお話する機会を設けたりしたことで、地域との繋がりを保つこともできました。

しかし、今年度は単発の活動にとどまってしまう、長期的な視点から活動を考えることができていませんでした。地域に行けない期間も例年行っていた活動の計画を立てることや、準備を進めることはできたと思います。今後は単発の活動だけでなく、長期的に行いたいログハウス周辺の開拓についても少しずつ進めていきたいです。また、今までの活動をいったん振り返る、活動記録を残す、活動を次の学年へきちんと引き継ぐなど運営の面でも改善点を見つけることができたので、実際の活動に反映させていきたいです。

活動地域より

1年間、皆さんとは直接お会いすることができませんでした。阿賀町のことを一生懸命に調べて、関わり方を考えて下さったことに感謝しています。皆さんの作った津川すごろく、いつか本当に、町を巡って楽しんでもらえることを期待しています。これからもがんばってください。

阿賀町役場 清野 直子 様

担当教職員より

今年度は1年生の継続希望者がとても多かったです...って、当たり前ですね。とうとう一度も津川には行けなかったのだから。勿論、私もです。この行きたいという思いを、活動にぶつけて行きましょう。勿論、上級生もね。地域の人はずっと待っていてくれる。

人文学部 齋藤 陽一

活動記録（2020年4月～2021年3月）

4月	
5月	
6月	
7月	オンライン地域実習
8月	料理リレー
9月	
10月	すごろく制作
11月	
12月	
1月	すごろく協力依頼の文書作り
2月	
3月	



8月28日 料理リレー



1月28日 すごろく協力依頼の文書作り

**ホームの概要**

メンバー構成： 1年生12人、2年生9人、
3年生7人、4年生4人、教員2人、職員2人

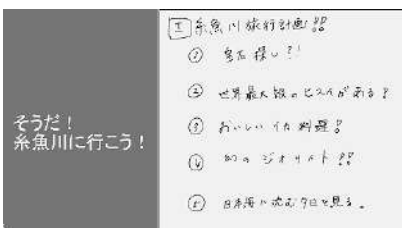
活動地域： 糸魚川市小滝地区

関連団体： ひすいの郷つくる会
糸魚川市役所

ミーティング： 平日昼休み週1回程度

成果物・制作物**V ホームメンバーのプロフィール帳**

コロナ禍という状況で対面することが出来ない中で体制を新しくしたVホームのメンバーについてのプロフィール帳を作成し地域の方々へ送信しました。また、メンバー内でも共有を行いました。

**地域調べ発表スライド**

グループに分かれて地域について調べスライドを作成し全体発表を通して共有を行いました。どのグループもうまくスライドの作成が出来ており、地域について多くを学ぶことが出来ました。

活動目的と概要

新潟県糸魚川市小滝地区は高齢者の方が多い地域です。また、自然が多い地域です。前年度の活動を振り返って見えてきた「①学生ならではのアイデア②地域との関わり③ホーム単位の活動④地域のことについて学ぶ⑤活動にあたり必要な心持ち」を大切に、まずは地域の方々にも楽しんでもらいながら参加する我々学生たちも楽しんで活動に参加できることを目的としています。

活動目標の達成状況**【地域活動について】**

今年度は地域への訪問が一度もできませんでした。その為、例年行われている小滝ウォーキングへの参加や敬老会、グランドゴルフを通じた交流等の活動が出来ず、今年度は主に Zoom を用いた交流となりました。

また、この他にも今年度の活動は主に地域について改めて学ぶことを中心に据え、これまで訪問した事のある場所だけでなく、これまで訪問したことのなかった小滝地区以外の場所について調べ学習を行いました。そのおかげもあってか、これまで活動をしてきた上級生にとっても新たな発見の出来る非常に良い機会となり、新たな活動のヒントを得る事が出来ました。また、活動を通して学んだことについて SNS 上で発信することが出来ました、ホームメンバーによるリレー投稿は好評をいただきました。

【ホーム運営について】

昨年度の計画の段階では一年生と地域の方々とのつながりを深めることを中心に活動しようという計画がありましたが、感染症の影響で計画通りに進めることが出来ませんでした。また、訪問も昨年度は一度も行うことが出来ず、一年生の期待に応えることが出来ず残念な結果となりました。しかし、Zoom を用いた他学年との交流を比較的多く開くことが出来たのではないかと考えています。また、自己紹介カードの作成を率先してできた点や地域についてこれまでより深く探求し、学ぶことが出来てよかったのではないかと考えています。しかし、かつてない状況に振り回されすぎており、これまで V ホームが大切にしてきた学年学部を越えた一体感を生むことがうまく出来なかったと反省しています。来年度は制限付きですが訪問は出来るので、実際に訪問や活動を行うことを通してこれまでのホーム運営に戻していければいいと考えています。

活動を通して学んだこと

今年度の活動では非対面という状況ではあったものの、Zoom でのミーティングを通してホームメンバーや地域の方々と関ることが出来てよかったです。また糸魚川市のジオサイトについても調査し、活動地域の理解を深めることができ、地域に愛着を持つ事が出来ました。

鈴木 浩紀 (経済科学部 1 年)

今年度は活動地域に赴くことはおろか、メンバー同士で集まる機会も激減してしまい制限の多い活動になりました。それでも、新しく迎えた新規加入生 12 人に活動地域の魅力が伝わるように勉強会や発表会を行い、どうにか地域の魅力が伝わるように取り組みました。

戸田 真一 (理学部 3 年)

今年度のダブルホーム活動はコロナ禍という事もあり訪問が出来ず残念でした。しかし、訪問が出来ないからといって活動を行わないのではなく地域について学び、まとめて発表を行うことが出来ました。これまで知らなかったことについて知り、学ぶとても良い機会となりました。

大宅 優希 (教育学部 2 年)

今年は地域に訪問が出来ないという中での活動でした。活動のメインはオンラインでのミーティングでしたが、就活で活動へのモチベーションが下がってしまったことからミーティングにあまり参加出来ませんでした。4 年生として後輩に地域のこと、ホームのことをもっと伝える必要があったと反省しています。森橋 洸太 (創生学部 4 年)

今後に向けて

今年度は新型コロナウイルスの影響で一度も地域を訪問する事が出来ませんでした。しかし、その反面 SNS での地域の情報の発信が前年度と比較し多く出来たのではないかと考えています。この情報の発信については今後も続けていきたいと考えています。また、SNS 以外でも情報が発信できるように他ホームとの連携をいかしていきたいです。

来年度の訪問については現在、計画を立てている最中で、訪問を行うことを最優先の課題として進めています。訪問の際には感染症拡大防止のマニュアルに則り、感染しない、ひろげない事を徹底した活動を展開していきたいです。また、来年度の活動は今年度と同様にこれまでにない形での活動が要求されると考えられます。その為、例年通りの活動ではなく、新しいチャレンジ活動が主な活動になるのではないかと予想されます。訪問を経験した事のある上級生をはじめこれまでの経験をいかした新たな活動の創出に力を注ぎ、訪問を経験したことのないホームメンバーについては訪問を経験していないからこそできる従来の活動に縛られないフレッシュな活動案を出してくれることを期待しています。来年度も V ホーム一丸となって頑張らしましょう。

活動地域より

今年度は新型コロナウイルスの影響もあって、難しい運営だったかと思いますが、その分、志向を凝らした活動をしていたのが印象的でした。小滝地区の皆さんも V ホームに会いたいと仰っていたので、ぜひ来年は「リアル小滝」を体験してもらえたらと思います。

糸魚川市役所 企画定住課 吉田 輝 様

担当教職員より

地域に未訪問の 1 年生、メインで活動する 2 年生、仕上げの 3・4 年生、皆さんがやるせない気持ちだったかと思いますが、オンラインで地域と顔合わせできたことや地域について調査できたことを糧にして、新たな気持ちで次年度を迎えましょう。

学術情報サービス課 藤原幸生

活動記録 (2020 年 4 月～2021 年 3 月)

- 4 月
- 5 月
- 6 月 プロフィール帳作成
Zoom 交流会
- 7 月 Zoom 交流会
- 8 月
- 9 月
- 10 月 ミーティング
- 11 月 ミーティング
ジオサイト調べ
- 12 月 ジオサイトまとめ発表会
- 1 月
- 2 月
- 3 月



10 月 Zoom でのミーティングの様子



12 月 対面ミーティングの様子

2020 年度 ダブルホーム関連のメディア掲載一覧

掲載年月日	掲載先	内容	関連ホーム
2020 年 8 月～	NST (新潟総合 TV) CM	大好き！にいがた！ 地域の方へのメッセージ CM (夏 ver.)	A、D、R、V ホーム
2020 年 8 月 14 日	新潟日報	沿道彩る花々鮮やか 阿賀・中ノ沢住民が植栽 交流の新大生がメッセージ	S ホーム
2020 年 12 月～	NST (新潟総合 TV) CM	大好き！にいがた！ 地域の方へのメッセージ CM (冬 ver.)	A、B、H ホーム

新潟大学ダブルホーム 2020 年度 活動報告書

発行日 2021 年 9 月 30 日

発行者 新潟大学 教育・学生支援機構 教育プログラム支援センター
連携教育支援オフィス ダブルホーム部門

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地
総合教育研究棟 B454

TEL : 025-262-7927

FAX : 025-262-7987

E-mail: home@ge.niigata-u.ac.jp

印刷 富士印刷株式会社



新潟大学ダブルホーム

ソーシャルメディアをチェック!

ダブルホームの活動の様子を配信中!

Homepage Twitter Instagram Facebook



リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。